ワタミが紡ぐ物語

私たちは

有機の土をつくり、有機の作物を育てる

生産性高く、安全安心な食品を加工する

笑顔とともに、圧倒的に価値の高い商品を提供する

日本の食文化を世界に広げる

高齢者の方々の生活を支える

おいしく健康のためのお弁当をまごころとともに届ける

未来の子どもたちのために、美しい地球を

美しいまま残すべく、環境と向き合う

未来の子どもたちに恥ずかしくないように

自然エネルギーをつかい普及させる

循環型社会を実現する

開発途上国の子どもたちの幸せに関わる

森を守り、森を育てる

素敵な奇跡を起こす「夢」を応援し、

私たち自ら「夢」を追い、「夢」を叶える









ワタミ株式会社

会社概要 (2024年3月期) 社 名:ワタミ株式会社

本社所在地:東京都大田区羽田一丁目1番3号(〒144-0043)

創 業:昭和59年4月 設 立:昭和61年5月 売 上 高:82,302百万円(連結)

資 本 金:4,910百万円

社 員 数:1,621人(グループ計)

事業内容

国内外食事業、海外外食事業、宅食事業、農業、環境事業、人材サービス事業

主なグループ会社:

有限会社ワタミファーム、ワタミエナジー株式会社、 ワタミオーガニックランド株式会社、

和民國際有限公司、WATAMI USA GUAM、 有限会社当麻グリーンライフ、ワタミエージェント株式会社

LEADER FOOD PTE.LTD. , SONNY SUSHI COMPANY

TEL:03–5737–2814 / FAX:03–5737–2719 ワタミふれあいホームページ:https://www.watami.co.jp ありがとうを、あつめる。



ワタミサスティナブルレポート2024

編集方針

本レポートは、ワタミグループの環境・社会貢献に関連する取り組みを開示することにより、多くのステークホルダーの皆さまと情報を共有し、SDGsを達成した持続可能な社会構築を目指しています。

報告の対象範囲ほか

対象組織:ワタミグループの海外事業を除く国内全社・全部門

対象期間:2023年4月1日~2024年3月31日 ※一部、最新の情報を記載しています

発 行:2024年10月





















ワタミの環境・社会貢献活動のあゆみ



2024年でワタミは創業40周年を迎えました。外食のフランチャイズからスタートし、「地球上で一番たくさんの"ありがと う"を集めるグループになろう」というスローガンのもと、宅食、農業、環境、海外、人材サービスへと事業を展開しています。 これからもお客様や地域、社会から"ありがとう"をいただけるように挑戦していきます。

1994~

1984 創

1992

居食屋「和民」笹塚店をオープン

障がい者地域作業所の バザーに屋台を出店

ボランティア研修開始



横浜訓盲院、横浜援護授産所の方々を



2024 コロナ禍で 中止されていた お食事会が 4年ぶりに復活!

史の 活 あ

1992年に居食屋「和民」笹塚店をオープンした2年 後、1994年より新入社員の入社時研修として、ボラ ンティア研修を実施しました。翌年の1995年から は、「全社員が年に1回はボランティアに参加する」 を合言葉に、活動しています。地域とのかかわりを深 めるために、各事業所が所在する地域のイベントに も積極的に参加し、福祉施設開催のバザーに屋台を 出店しました。外食事業で培われたノウハウを活かし て、お好み焼きや焼きそばなどを販売し、その売り上 げを福祉施設に寄附しています。

1999年からは、障がいを持つ方たちを、外食店舗に 招待して、「お食事会」を開催し、外食の楽しさを感じ ていただく機会を提供しています。参加する社員は、

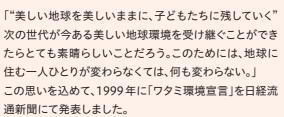
> 活動を通して、サービスの原点である ホスピタリティを学ぶ機会でもあり、 「相手の喜びを自分の喜びに変える」 を実践しています。





ワタミ環境宣

ISO14001認証の取得



環境宣言の思いを具現化するために、外食業界で初めて

国際認証機関ISO14001の認証を取得しました。店舗で

の節電や節水、ゴミの分別などの環境負荷の削減をする

ことで、店舗で働く社員、パート・アルバイトの意識を変え

て、未来を変えていく活動を推進しています。

「ワタミふれあいカード」を発行

4583 0123 9561

NEW OR - NOW THE

1996年より「未来の子どもたちのため に」をテーマに「ワタミふれあいカード (クレジットカード)」を発行していま す。現在では、ワタミグループ国内外食 店舗、「ワタミの宅食ダイレクト」での利 用総額の1%相当を社会貢献活動を行 う団体に寄附しています。

未来を生きる子どもたちに、自然 を愛し大切にする心と、夢を叶え り小学校4~6年生を対象に自 然学校を開催しています。





1995 ワタミの環境活動のスタート

保温容器の回収リサイクル

きっかけは、1995年のお好み焼き宅配事業 「KEI太」の発泡スチロール製保温容器でした。 ある日、ゴミ集積所に山積みになった「KEI太」 の容器を見て、この容器が東京都の埋立て処分 場に埋められることを知り、お好み焼き1枚で

この大きな容器が地球に埋 められていくことは、許さ れることではないと考え、 容器の回収・リサイクル を始めました。

2007 廃棄物の発生抑制のため 外食店舗で割り箸を廃止

2007 有志社員による森林再生 活動がスタート

2009

オリジナル日本酒びんのリユース

2009年よりオリジナル日本酒びんの リユースに取り組んでいます。ガラス は自然界に存在する天然素材からつ くられ、食品容器として安定性が高く リユースの適正にも優れています。リ ユースすることにより、びんの排出抑

エコ・ファースト企業に

2010年には、日本酒びんのリ

ユースや食品リサイクルルー

プの構築が評価され、外食業

界で初めて環境省よりエコ・

ファースト企業に認定されま

認定される



風力発電「風民」稼働と 再生可能エネルギーへの 切り替え

な

会

を

目

指

2012

2012

「RE100」に加盟

風力発電事業に参入

秋田県に建設された風車は、 社内応募で「風民」と命名されました。

2018年には、事業活動で消費する電

力を100%再生可能エネルギーで調

達することを目標に掲げる企業が参

2040年までに事業活動で消費する

電力をすべて再生可能エネルギーに

加する「RE100」に加盟しました。

する目標を掲げています。

RE100



2010年認定当時の環境大臣と



清水副社長が出席

2013~

地域や警察との連携で社会を見守る

2013 宅食事業にて、各自治体との見守り協定の締結がスタート

ワタミの宅食ではお弁当をお届けする際、お客様の体調異変など の緊急対応件数が年に100件以上に上ります。この特性を生かし、 地域や警察との連携で社会を見守る活動が拡大しました。「振り込 め詐欺」などの被害防止対策に力を入れる各警察機関と協力し、特

殊詐欺防止のための取り組み をはじめ、2024年3月地点で 230カ所の行政と見守り協定を 締結し、各自治体から多くの感 謝状もいただいています。



2020 コロナ禍において「臨時休校支援」実施

宅食事業では、2020年の新型コロナウイルスによる小学 校・中学校・高等学校への休校要請を受け、幼稚園~高校 生を対象に商品代金相当無料、お届け諸経 費のみで商品を提供する「臨時休校支援」 を実施し、50万食をお届けしました。

SDGs推進本部の設立

本業の中で、SDGsを実現するために、 SDGs推進本部を設立しました。SDGs を推進するために、社内横断型タスク

フォースチームをつくり、グ ループのマテリアリティ(重要 課題)を抽出し、その解決に向 け、毎月SDGs会議で経営層 に対し、提案・報告しています。



サーキュラーエコノミーを目指して (廃棄物を出さない資源循環型経済)

宅食事業のプラスチック製弁当容器回収リサイクルを稼働

プラスチック製容器は、焼却時に発生する温室効果ガスが地 球温暖化の原因となり、また海洋プラスチック汚染も大きな 環境問題です。そこで2019年より愛知県での弁当容器回収 リサイクルを稼働し、2021年には、お届けするすべてのエリア でリサイクルを実現しています。 詳細はP16

食品工場の食品リサイクルループを構築、認定

外食店舗やワタミ手づくり厨房から排出する食品廃棄物は、 焼却時に発生する温室効果ガスにより温暖化の原因となりま す。そのため、食品廃棄物を出さない取り組みに努め、どうし ても出てしまう食品残さは、飼料や堆肥の原料にし、それを 使って生産された農産物を買い取る食品リサイクルループを 構築し、再び商品食材としてお客様に提供しています。

2024年現在、4地域で食品リサイクルループ認定を受けてい ます。 詳細はP18

保お温好 容器の回収・リサイクを焼き宅配事業にて

1995

未来 の 子ど ŧ たち のために

わたみ自然学校スタート

る力を育てるために、1999年よ

2023年は岩手県陸前高田市にて開催



2023年エコファースト総会に



ありがとうをあつめて40年

ワタミは創業40周年を迎えました。ワタミの目指すSDGs達成年2030年、そしてその後に続く持続可能な100年企業を目指す思いは、SDGs宣言「SDGs日本一を目指す」、グループスローガン「地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めるグループになろう」を具現化したものでもあります。 ワタミの40年にわたる環境社会貢献の取り組みとその成果、そして現在取り組んでいるマテリアリティ(重要課題)について、代表取締役会長兼社長 CEO 渡邉美樹と執行役員SDGs推進本部長百瀬則子の対談で紹介します。

ワタミの地球環境や地域社会への思い 美しい地球を美しいまま、 未来の子どもたちに残していく・・・40年間続けてきたこと(脱炭素社会、循環型社会)

百瀬:ワタミは40周年を迎えましたが、その間ずっと企業活動から 発生する地球環境課題解決や地域社会への貢献に、社員全員で取り 組んできました。

渡邉: ワタミの外食店舗や宅食事業では、毎日たくさんの廃棄物を排出し、その廃棄物が地域社会を汚していることに気づいたのは、お好み焼きの宅配事業をやっていた時でした。地域のゴミ集積所に大量の発泡スチロール製の自社の容器が捨てられているのを見て、「これは何とかしなくてはいけない。」と思った時です。目の前の廃棄物問題だけではなく、ワタミ全体の環境問題を解決するために、ISO14001に取り組み、1999年に外食業界初の認証を取得しました。その目的は「社員一人ひとりが自分の仕事や生活で自然環境を汚さないように考え、行動することで、自分の家族や友人、周りの人たちに伝わり、たくさんの人が共感して地球環境保全に動いてくれること」です。

百瀬: それから25年間、ISO14001を継続して、社員全員が毎日 PDCAを回しています。そしてその思いは未来を生きる子どもたち にも伝えていますね。

渡邉:ちょうどその頃、北海道の有機農場に視察に行って感じた大自然への感動を、子どもたちにも感じてほしいと思い「わたみ北海道自然学校」を始めました。場所が一昨年から陸前高田市に代わりましたが、今年で26年目になります。未来を生きる子どもたちに自然を好きになり大切にする思いを伝えるワタミの大事な環境活動です。

また、わたみ自然学校では子どもたちだけではなく、先生として参加する社員の教育の場にもなっています。子どもたちにどのようなことを伝えたいのか、何を学んでほしいのか、ということを真剣に考えることで、私たち大人が果たすべき責任が見えてくるわけです。地球環境を守ることは、未来の子どもたちへのプレゼントだと思っています。

百瀬:2010年には、外食業界で唯一エコ・ファースト企業に、環境大臣から認定されました。

渡邉:外食店舗や食品工場から排出される食品残さで堆肥をつくり 有機農業に使い、できた作物を店舗で使うという食品リサイクル ループと、日本酒びんのリユースという循環型社会への取り組みが 評価されたのですね。ワタミが環境保全活動のリーディングカンパ ニーとして、関心の薄かった外食業界が、後に続いてくれれば嬉しい と思ったのです。現在も食品リサイクルループや、宅食のプラスチック容器回収リサイクルは、サーキュラーエコノミーとして他社の見 本となるビジネスモデルです。また、ワタミモデルは脱炭素社会にも 貢献しています。環境問題に取り組む企業が増えれば、成果が上がり コストも下がります。ワタミだけが独走するのではなく「地球に良い ことはみんなでやろう」というのが大事です。

百瀬:地域社会貢献活動としては、「お食事会」も25年続いています。 渡邉:私は学生時代から養護施設への支援を行っていますが、「養護 施設の子どもたちや障がいのある人たちは、他のお客様の目が気になるから、外食がなかなかできない」と聞いていました。「それなら営業時間前に店に来てもらえばよいのでは」ということで始めたのです。社員たちが自ら手を挙げてボランティアに参加し、どうしたら喜んでもらえるかと相手のことを考えて工夫を凝らすことや、ボランティアの意義を理解することは、今ではワタミの企業文化になっています。





ワタミの人権方針は、社員やワタミに関わる人の幸せのためにある 社員の幸せ日本一を目指す・・・働きやすい職場づくり

百瀬:SDGsは環境のことだけではなく、人の幸せに関する重要な目標があります。2023年に「ワタミ人権方針」を定めました。

渡邉:創業時から、社員を幸せにすることを経営目標の第一に置き、 そして社員が幸せに働き、幸せに暮らすことを、ワタミのミッション にしています。

また、「一人でも多くのお客様にあらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること」を事業理念として、お客様に喜んでいただける店づくりに励んでいますが、そこで働く人たちが幸せであることもとても大切だと思っています。自分が幸せであれば良いサービスができ、それを喜んでもらうことを嬉しいと感じられます。

縁あってワタミという会社に関わってくれたのだから、何としても幸せになってほしいという思いを「ワタミ人権方針」として発表し社員に周知して、安心して働ける職場作りを進めています。それが理解

され実行されているかどうかデューディリジェンスを実施し、人権問題が未然に防げるように、2024年には「ワタミ人権リスクガイドライン」を策定します。

百瀬: ワタミ社員だけではなく、お取引様で働く人の問題でもあります。 渡邉: 一緒にビジネスをする、仕入れや生産(魚を捕ることも)や運輸に関わる会社や人も「自分が幸せだからよいサービスができる」という価値観を同じくするところとサプライチェーンを組んでいきたいと思っています。そのため、2023年に「サプライヤーガイドライン」を策定し、お取引企業様向けアンケートを実施し同意していただいています。また人権問題に対応する「ワタミヘルプライン」はワタミ全従業員だけでなく、サプライヤーで働く人たちも利用できます。これからも私たちを支えてくださるサプライヤーと共に人権の尊重や擁護に取り組んでいきます。

ワタミモデルはお客様と一緒にネイチャーポジティブに貢献 農薬や化学肥料を使わない有機農産品を提供しています

百瀬: ワタミファームの有機農業は、人間の健康だけではなく、生物 多様性を保全する農業です。

渡邉:地球環境保全に関して、今までは地球温暖化を防ぐ脱炭素が最重要課題でしたが、これからは地球に生きる人間だけではなく、生き物の命を守り増やすことが重要です。

ワタミファームの有機農業は農薬や化学肥料を使用していないので、土の中の微生物や畑の昆虫など生物多様性が保全されています。 先日もファームに行ったときに、畑に蝶が飛んでいるのを見かけて嬉しく思いました。北海道の美幌峠牧場では農薬や化学肥料を撒いていない牧草地で育てた乳牛のグラスフェッドミルクを出荷し、これでアイスクリームを生産して店舗で販売しています。

百瀬:この美幌峠牧場は自然や生き物と共存しているということで、 国に自然共生サイト(OECM)申請の準備を進めています。



渡邉: ワタミは地球上のすべての生き物が、生き生きと暮らせる環境を守ることを目標として活動しているので、それがネイチャーポジティブに繋がることは、とても自然なことです。

ワタミファームの有機農業で育てられたさつま芋やレタスを、外食店舗や食品工場でお客様に食べていただくことは、美味しいだけではなく「お客様も一緒に地球環境に貢献している」ということです。 それをもっと世の中に伝えていきたいですね。

復興と、未来に残す美しい自然のために、陸前高田でワタミの森活動を始めます

百瀬: ワタミは事業活動だけではなく、未来の子どもたちに美しい自然を残すために、「ワタミの森」活動で森林再生を社員やボランティアとともに行っています。

渡邉:ワタミと協働している公益財団法人 Save Earth Foundation (SEF)とともに、荒廃した森林を陽の射す明るい森に再生する活動を進めています。これは森林とそこで暮らす生き物を保全するネイチャーポジティブへの貢献だけではなく、CO2を吸収して地球温暖化防止のためでもあります。

百瀬: 今年から岩手県陸前高田市の森林再生活動を始めます。

渡邉: 陸前高田市と2023年にワタミエナジー(株)とSEFが市と協定を結び、560haの広大な森を再生し、生物多様性保全とCO₂吸収能

力をJ-クレジットとして発行をすることで、地球環境保全と災害復興に貢献する計画です。そしてここにはワタミオーガニックランドがあり、わたみ自然学校も開催しています。

百瀬:陸前高田市の森林再生事業「企業の森」は、SEFの多くの会員企業と協働で進める計画です。

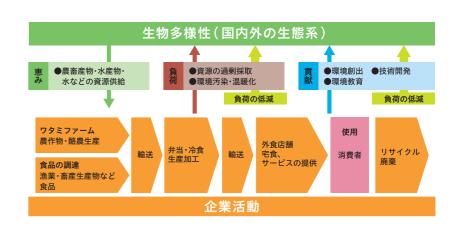
渡邉:たくさんの企業が「企業の森」に参加して、社員や家族と一緒に森の活動を通して地球環境に関心を持ってもらうことも大切なことです。未来の子どもたちに、美しい地球を残せるかどうかは、私たち大人の生き方にかかっています。

一人でも多くのワタミの社員や企業の方たちと活動を広めていきた いですね。

■生物多様性とワタミの事業活動

ワタミモデルは、1次産業:有機農業(ワタミファーム)、2次産業:食品加工事業(宅食弁当製造・冷凍 惣菜製造)、3次産業:外食事業・宅食事業と、食に 関わる事業です。

食品のほとんどは生き物であり、それらはすべて生物多様性の恩恵を得ています。また、宅食事業では使用済みプラスチック容器回収リサイクルにより、海洋プラスチック汚染を防止し、海の生物多様性保全に努めています。



■ 気候変動と生物多様性…ネイチャーポジティブ

りまり自然共生社会の構築

国連のグテーレス事務総長が「地球沸騰の時代」と警告しているように、 気候変動は私たちの生活に現実的に影響を及ぼしています。生物多様 性にも別々の問題ではなく大きく関わっています。気候変動により平均 気温が上昇し、降水量が変化して豪雨や干ばつによる生物多様性の劣 化が起きています。また人間の活動が原因である生態系の損失も含め、 地球環境の脅威になっています。これ以上生物多様性を失わず増やして いくこと:ネイチャーポジティブを世界中が目指しています。

生物多様性

生物多様性(Biodiversity)とは、1985年に生まれた、地球上の多種多様な生命のつながりを表す言葉で、生物的な(biological)と多様性(diversity)という2つの言葉からできています。地球には目に見えない細菌からクジラのように巨大な動物まで、3,000万種の生命が暮らしています。すべての生き物は長い歴史の中で、異なる環境の中に居場所を見つけながらともに進化してきました。それらの命は互いに繋がり、支えあって共存してきました。これを生物多様性と言います。

ネイチャーポジティブにおいては2030年までに 自然資産の増加を実現することを目指している

12 2008 13 ANDROUGH 14 ANDROUGH 15 ROBERS 17 ANDROUGH 17 ANDROUGH



出典:https://www.naturepositive.org/

①生態系の多様性

気候変動問題と同時に生物多様性についてもSDGsの重要課題とされています。私たち人類は自然に囲まれ、自然からの恵み

を当たり前のように受け取って生きてきました。自然資源を人類の欲しいがままに使い続けていると、やがて生態系が失われく

人類だけではなく地球上から生命が絶えてしまいます。ワタミは生物多様性を保全する自然共生社会の構築を目指します。

(生き物が生息する自然環境と、そこに生息する生き物同士の関わり合い)

②種の多様性(生き物の種類の豊富さ)

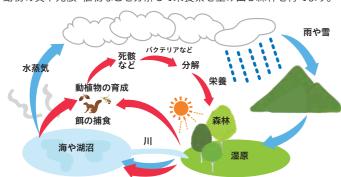
③遺伝子の多様性

(同じ種でも遺伝子によって、形状や模様・生態など様々な個性が出ること)

■ 生物多様性からの恵み:生態系サービス

基盤サービス

酸素・気候・水・土壌などは、生物の生存に必要な基盤であり、生物多様性に支えられています。酸素は植物の光合成、森林や海が気温や気候を安定させ水が循環し、豊かな土壌が動物の糞や死骸・植物などを分解して栄養素を生み出し森林を育てます。



供給サービス

人間が利用している、食料・木材・燃料・鉱物などの自 然資源など、また野生種の遺伝情報による品種改良 なども供給サービスです。

調整サービス

大気・気候変動の緩和、森林による雨水を貯えて浄化 したり、土壌の流失など予防し災害を防ぐ役割を果 たしています。

文化的サービス

自然景観や芸術、地域性豊かな文化、伝統などです。 自然の中で環境教育やエコツーリズムのような観光 資源としても活用されています。

■ COP15昆明・モントリオール生物多様性枠組み

2022年にカナダのモントリオールで開催された国連の生物多様性条約第15回締結国会議で、2050年ビジョンとゴール、2030年ミッションとターゲット(行動目標)が定められました。「2050年までに、生態系サービスを維持し、健全な地球を維持しすべての人に必要な利益を提供しつつ、生物多様性が評価され、保全され、回復され、懸命に利用される」という、人と自然が共生する世界を目指しています。

2050年ビジョン **自然と共生する世界**

2050年ゴール

- ゴール1 自然生態系の面積が大幅に増加し、絶滅速度と絶滅 リスクを1/10に減らし、遺伝的多様性を維持する。
- ゴール2 自然を保全し、持続可能に利用する。自然が人間に もたらす価値を評価し、強化する。
- ゴール3 遺伝資源の利用から生じる利益を公正かつ衡平に 配分する。
- ゴール4 2050年ビジョン達成のため年間7,000億ドルの 資金不足を徐々に解消する。

ネイチャーポジティブ: 自然を増やすことと、 カーボンニュートラルの両立

2050年までには生物多様性や生態系を十分に回復させ、今より自然の生態系の面積を増やすという目標、ネイチャーポジティブが定められた。そのために2030年までには、陸や海の30%を保護し、また劣化した生態系の30%を効果的に回復することなどが、行動計画(ターゲット)として定められた。

■ ワタミはネイチャーポジティブとカーボンニュートラルの両立を目指します。

ワタミは、COP15 昆明・モントリオール生物多様性枠組みで決まった、2030年ターゲット(行動目標)の中で、目標15:「企業や金融機関が生物多様性へのリスク、依存、影響を評価し開示することを求める」に関して、2023年に自然関連課題に対するTNFDの最終提言が発表されたことを受け、TNFDの開示に取り組んでいます。また、目標3:「陸域・内水域・海域の30%を保全(30by30)」に貢献するために、自社有機農場や森林再生活動を行っている森を、自然共生サイトOECMの申請に取り組んでいます。

目標7: 環境への栄養分流出を半減、農薬リスクを半減、プラスチック汚染を削減

目標8: 自然に基づく解決策で気候変動対策に貢献する

目標10:農業、養殖業、漁業、林業の持続的な管理と生産性やレジリエンスの向上

目標 16: 食料廃棄を半減し、過剰消費を減らし、市民の責任ある選択と情報入手を可能にする

目標22: 生物多様性管理の意思決定への先住民、女性、若者の公平な参加と権利

尊重

目標23: 枠組みの実施におけるジェンダー平等の確保

■ TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース) Taskforce on Nature-related Financial Disclosures

ワタミは事業活動を、ネイチャーポジティブを目指すTNFDのフレームワークにより、評価し情報開示することで、自然環境や生物多様性への影響の「見える化」に取り組んでいます。

ワタミモデルを通し食料や水といった生物多様性からの恵み (自然資本) を得た事業活動を行い、自然資本と密接な関係にあります。そのため、自然との接点や依存関係、影響、リスクや機会などの自然関連課題を評価し、保全・回復に向けて取り組む必要があります。2023年度は、TNFD 導入研修に全事業部が参加し、それぞれが自然に関わる活動を特定しました。そのうち影響が大きいと考えられる農業、外食事業、宅食事業、仕入および管理本部については、各事業で重要と考えられる自然関連の依存関係と影響を評価し、それをもとにヒートマップを作成しました。ヒートマップから農業が特に影響が大きいことを特定できたため、2024年のTNFDでは先ず農業の開示から進めることとしました。

評価の方法はTNFDが推奨する「LEAPアプローチ」に沿って行うこととし今回はLEAPアプローチの「Locate 段階(L1 および L2)」に取り組んでいます。



全事業部参加の研修会



(株)ウェイストボックス 鈴木氏による講演



TNFDについての質疑応答

2023年度は赤枠(L1およびL2)を全事業部で研修を受け、取り組みました。

「水と生きる|サントリーとネイチャーポジティブについて ステークホルダーダイアログを行いました

ワタミは自然共生社会を有機農業や森林再生活動を通して実現しようと努めています。

そしてそれは、私たちにたくさんの恵みを与えてくれる生物多様性を大切にして、今より豊かにするというネイチャーポジティブを目指すことでもあり ます。ワタミとサプライチェーンを繋いでいるサントリーホールディングス株式会社サステナビリティ経営推進本部の内田部長、NACS環境委員の大 石様、ワタミ(株)仕入開発本部萩野本部長、そしてSDGs推進本部百瀬本部長が、ネイチャーポジティブと企業活動について語り合いました。

サントリーはウォーターポジティブとネイチャーポジティブを両立させ ています。ワタミは有機の畑で人にも地球や生き物にも優しい野菜を 作っています。

内田部長:もともとサントリーが「天然水の森」活動を始めたのは生物 多様性を意識していたわけではなく、水源を守ることが目的でした。サ ントリーは、水や農作物など自然の恵みに支えられている食品酒類総 合企業です。自社工場で汲み上げる水の水源となっている森をしっか り守り、自社の事業を継続していくための水の量ときれいな水を守って いくための、「天然水の森」活動をはじめたというのがスタートです。良 い森づくりのためには適度な間伐をして、光がはいり植生が育つように します。落ち葉などで土がどんどん柔らかくふかふかの土になって、水 が染み込みやすくなるんです。降った雨が地中にしっかり染み込んでい くような森をつくっていくと、土の下だけではなく、土の上の植生もすご く豊かになり、生物多様性の豊かな森になるのです。水の涵養を目的に した「天然水の森」活動を20年やってきて気づいたことです。

百瀬:豊かな森にはいろんな生き物たちが暮らしていますね。

内田:2003年に始めた「天然水の森」は生物多様性を測るための指標 として、鷹が住めるような森をつくりたいと思っています。鷹は生態系の ピラミッドの頂点で牛熊系がきっちりできていないと住んでくれませ ん。鷹は空を飛べるので気に入らない森だったら逃げていく。そこが 我々の指標として鷹が住むような森をつくっていきたいと目指している

百瀬:ワタミは有機農業を20年近くやっています。有機で土作りして農 薬や化学肥料を使わず、お客様に安全安心な野菜を作りたいというの が始まりだったのですが、そこから土壌に住んでいる生き物たちにとっ ても良いとか、そういった土壌がCO2を吸収できるとか、だんだんわ かってきました。この事業を大切に進めていくべきではないのかという ことに気づいたのです。

萩野:長野県、群馬県、千葉県に農場があります。それぞれの農場で収 穫時期と量、売る時期をうまく計画立てて繋げていくことがここ数年の 取り組みでできるようになりました。今は年間を通してワタミの紡ぐ物 語のキャンペーンでいろんな有機野菜を販売する流れがようやくでき

大石: 先日お店でワタミファームの有機のレタスを食べて、こんなにお いしいんだって思いました。野菜は、旬というのがあって夏じゃないと 食べられないものが冬に食べられること自体がおかしくて、この時期し か食べられないというのが、普通の正しい食文化だと思います。

百瀬:Z世代だと商品やメニューを選ぶときに、美味しいとか安いだけ ではなく、地球や生き物のことを大切にして作られたものを選んでいま

内田:サントリーでもお客様が商品を選ぶ基準が変わってきて、サス ティナブルじゃないと売り場に並べてもらえなくなると考え、取り組ん でいます。

萩野:私も材料を仕入れる時に、生産者が地球環境や資源を守ってい るものを選ぶようにしています。

サスティナブルな商品を作るサントリーと、それをお客様に販売するワ タミ、その思いを消費者にどう伝えていますか。

内田:日本では「良いことをしても表に出さない:陰徳陽報」ということ が美徳とされていますが、サスティナビリティは言わないと伝わらない ので、もっとアピールしないといけないですね。ワタミサスティナブルレ ポートを見て素晴らしいと思ったのは、SDGs推進本部だけではなく、 営業や仕入れやいろんな部署がSDGs会議に参加して、解決策を出し ているところです。商品づくりやお店でお客様に直接対応している最前 線に立つ担当者が、真剣にサスティナビリティのことを考えないと、 その価値化や伝え方は出てこないのではないかと思います。ワタミ様

サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ経営推進本部 戦略・人権・基盤統括 部長 内田雄作氏 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 理事及び環境委員 大石美奈子氏 ワタミ株式会社 SDGs 推進本部長 百瀬則子、仕入開発本部長 萩野卓馬

のように、そこの人たちが知恵を絞って、ストーリーを入れ込んでいく ことに尽きるのですね。サントリーでも、事業が中心となって森と水の 価値をいかにお客様に伝えていくかというストーリー作りの中で、 ウォーターポジティブという言葉を使い始めました。

大石:消費者としては、自分が選んで購入したものがどこかで誰かのプ ラスになるとか、森を守ることに繋がっていると嬉しいですね。だからそ ういった情報を伝えてほしいと思います。そうじゃないと消費者には企 業の思いに気づけないのです。消費者もアンテナを立てておかないと いけないですね。

内田:情報発信と同時に教育・啓発活動がすごく大切だと感じています。 サントリーでも子どもたちが、水や、水を育む森や自然の大切さに気づ き、未来に水を引きつぐために何ができるかを考える、次世代環境教育 「水育(みずいく)」を2004年から始め、今年で20年目を迎えました。

百瀬:ワタミのサステナブルレポートは小学5年生の子どもが読めるよ うな表現や内容にしており、子どもがお父さんの会社ってSDGsの取り 組みしているんだねという会話につながればと考えています。お取引様 やお客様にも伝えられると一番だと考えています。

内田:今の子どもたちは小学校でSDGsを学んでいるので、親が勤める 会社ってどんなことをしているのってどんどん聞いてほしいですね。そ の時に自身の会社の活動を改めて認識すると、会社に勤めていること の誇りにもつながります。そういった意味でも社員のモチベーション維 持でも、サスティナビリティ活動はすごく重要だと感じます。自分の周り の人たちから会社を見られている意識が高まると、サスティナビリティ の価値が変わり、社員教育にも重要なポイントになると考えます。

未来の子どもたちに一言

百瀬:「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」というの が私たちのテーマです。

内田: 持続可能というのは未来の子どもたちも我々と同じだけの資源と 環境を享受できるような状況を残していくべきだと思うし、その中で企 業としてやっていかないといけない役割というのはすごく大きいと考え ますし、社会変革や消費者教育、情報発信を含めて行動していかなくて はいけない、それだけ企業の力は大きく影響力はあると考えています。 良い方向に働かせて、将来子どもたちにとっても「さすがサントリーだ ね」といわれるような会社に私自身もしていきたいと考えます。

荻野:ワタミが未来の子どもたちからも、「あのときの活動があってあり がとう」と言ってもらえるように、これからも環境活動に取り組んでいき たいです。

大石:どんどん情報を的確に発信していくことで、消費者の目を覚まさ せる活動をしてほしいです。自分自身も、ワタミ様やサントリー様の取り 組みで知らない活動があったので、企業からは消費者に伝えるという ことをぜひ今後も積極的に行動していただけると、それが将来の子ども たちにつながると考えます。

※発信者からの各企業の敬称はそのままとしました

ワタミのネイチャーポジティブへの貢献

■ 生物多様性を保全し脱炭素にも取り組むワタミファームの有機農業

2002年からワタミは有機農業を行い、現在では530haの農地で生物多様性保全に貢献しています。農薬や化学肥料を使用しない農地は土壌や地下 水の環境汚染を予防し、昆明・モントリオール目標8:「環境への栄養分流出を半減、農薬リスクを半減」に貢献します。さらに化学肥料由来の温室効果



当麻グリーンライフ 農業法人(有)当麻グリーンライフ

有機JAS認証 ※採草地のみ 生乳 美幌● グラスフェッドアイ

循環型農業テーマパーク

オーガニックをテーマに、再生可能エネルギーを利用した循環型6次産業モ デル(ワタミモデル)を具現化する施設であるとともに、東日本大震災で大き な被害を受けた陸前高田市の地方創生に貢献することが目的です。



管理面積 530ha

2024年3月末時点

CO2吸収効果

3,197t-co2

(畑作 153ha 酪農 377ha)

●有機 IAS 認証面積 301ha



ロメインレタス、レタス、

生態系を守るワタミファームの2023年度有機農業実績

総出荷量 2.476 t

■ 30by30への貢献とアライアンスへの加盟

きく芋、キャベツ





陸前高田













山武農場 有機JAS認証 人参、落花牛, 生姜、きく芋、 大根など

※管理面積は、当麻グリーンライフとワタミオーガニックランドを含む

30by30

2021年のG7サミットにおいて、2030年までに陸と海の30%以上保全を目標

にした30by30目標が定められました。現在、陸域の20.5%、海域の13.3%は国 立公園などで管理・保全されています。目標の達成に向け、国だけでなく、民間の 取り組みも重要となり、「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として国が認定し、保全区域の拡充を 図る取り組みを進めています。ワタミは、30by30アライアンスに賛同し、自社農場や牧場、関係する森林を自然共生サイトの認定に取り組んでいます。

■ ワタミは事業活動の場、環境活動の場を自然共生サイト(OECM)申請に取り組みます

グループ内へ出荷303t

生乳 1,460,339kg さつま芋 45,565kg ロメインレタス 9,476kg

レタス 136,782kg 大根 38,317kg 落花生 6,335kg

きく芋 136,472kg キャベツ 27,970kg にんにく

126,786kg 生姜 21,732kg

グループ外へ出荷2.173 t

2024年度より有機農業や森林再生活動の場を「自然共生サイト」の申請を行い、生物多様性の保全を図る計画です。まずは北海道の美幌峠牧場で 自然共生サイト登録に向け、鳥類調査等の生物調査を行っています。またワタミが森林再生活動に参加している千葉県「日向の森」では、公益財団法 人 Save Earth Foundationが2016年から生物調査を実施しているので、こちらも申請を予定しています。









オオジシギ (希少種

外食事業(国内)





おいしいものがあって、良いサービスがあっ て、良い雰囲気がある場所に、好きな人と一 緒にいる。こんな快適な空間、笑顔のあふれ る場面を一つでも多く提供していきます。











外食事業(海外)





日本の食スタイルを楽しく、気軽に味わってい ただくことを目指し、本物の味と心の込もった サービスを提供しています。海外でも外食を 通じて、ワタミの思いを形にしていきます。



宅食事業







調理済商品の平日1日 あたりのお届け数

高齢者の見守り 営業所 **523**拠点 協定締結数 **230**ヵ所

日替わりのお弁当・お惣菜と「まごころ」を届 ける。これらを続けることで、社会に欠かせな いインフラとなる。お客様のいきいきとした生 活の実現をお手伝いします。











農業



直営農場・牧場

530ha **7**カ所 有機認証圃場 **301**ha

持続可能な循環型有機農業を推進するととも に、その農産物を加工販売する6次産業を展開し ています。農業の活性化を通じて地域を守り、有 機農業を通じて脱炭素社会の実現に貢献し、ま た人々の健康に貢献する食品を提供しています。







環境事業(電力事業)





風車1号機、ルーフソーラーパネル2023年度の発電総量

5,965,260 kWh

低減する取り組みをしています。再生可能エネ ルギーによる発電、電力の販売などで、地域の 資源やエネルギーが経済的に循環する 「持続 可能な循環型社会づくり」を目指しています。









WATAMI ENERGY

人材サービス事業





ワタミグループ内外への 人材紹介の人数 2023年度 **8,510**人



ワタミグループの従業 WATAMI AGENT サッミケルークの従来 員の多様な働き方を 世界するために「ロタ 推進するために、「ワタ

ミエージェント株式会社」を設立しました。 ワタミモデルの推進・個々の夢・目標達成 のため、他企業での学びある就業機会を提 供しています。



Dream Street Groupは、海 外教育事業として、アジア各 国の日本語学校、送り出し機 Dream Street 関を展開し、特定技能人材・ 技能実習生の採用・教育・出

国・日本滞在・帰国後まで一貫したサービ スを提供することで、個と地域が成長する みらいづくりに貢献してまいります。

ワタミモデル



ワタミモデル

再生可能エネルギーを利用した循環型6次産業モデル

ワタミファームで採れた有機野菜(1次産業)は、ワタミ手づくり厨房 で加工(2次産業)され、ワタミグループの外食事業や宅食事業(3次 産業)を通じて、全国のお客様に提供されています。持続可能な循環 型社会の構築を目指すワタミグループでは、環境負荷を軽減するため の取り組みや、再生可能エネルギー事業として発電設備の開発・建 設・運転管理にも取り組んでいます。この一貫統合された"独自の6 次産業モデル"が、ワタミグループの事業を成長させ、さらに新しい事 業領域の可能性を広げています。



「陸前高田ワタミオーガニックラン ド」はワタミモデルを具現化する循 環型農業テーマパークであると同時 に、東日本大震災で大きな被害を受 けた陸前高田市の地方創生に貢献 することが目的の施設です。

SDGs 宣言

ワタミはSDGs日本一を実現し 地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めます



2019年第定

ワタミ サスティナブル方針

2018年第定

SDGs宣言

ワタミは SDGs 日本一を実現し 地球上で一番たくさんの "ありがとう"を集めます

2010年認定 エコ・ファースト の約束

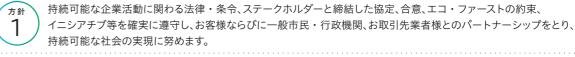
詳細はP11

1999年策定 環境宣言

美しい地球を 美しいままに、 子どもたちに残していく

ワタミ サスティナブル方針

ワタミグループは、外食事業、宅食事業、原料調達から消費までのサプライチェーンを構成する事業、 農業、エネルギー事業において、経済的・社会的・環境的ニーズの充足、従業員の幸せ、 地域貢献などの持続可能な企業活動を通して、SDGsを達成します。



2

全従業員が持続可能な社会への関心を持ち、サスティナブルマネジメントシステムを理解し、正しく運用することにより、 汚染の予防、環境保護、並びに持続可能な開発目標(SDGs)を推進し、継続的な改善に努めます。

持続可能な社会を目指したサスティナブル目標を設定し、事業活動を通じてその達成に努めます。 3 省エネ・再生可能 脱炭素 エネルギーの導入により、 CO2排出削減 持続可能な 社会 廃棄物の 循環型 牛物多様性 発生抑制 保全活動を

推進

- ●脱炭素社会の実現に向け、省エネ・再生エネルギーの
- 導入によりCO2排出削減を推進します。 ●循環型社会の実現に向け、廃棄物の発生抑制と
- 資源循環を推進します。 自然共生社会の実現に向け、生物多様性保全活動を 推進します。
- ●持続可能な社会の構築を目指し、社内外でSDGs達成 のための教育を推進します。

資源循環を推進

サスティナブルマネジメントシステム(PDCA モデル)を確立し、継続的に改善し、経済的・社会的・環境的パフォーマンスを 向上し続けることで「地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めるグループ」を目指します。

CONTENTS -

- 01 特集:ワタミの環境・社会貢献活動のあゆみ
- 03 トップインタビュー
- 05 特集:自然共生社会の構築 08 ステークホルダーダイアログ
- 09 ワタミグループの事業活動+ワタミモデル
- 10 サスティナブル方針 11 エコ・ファーストの約束
- 13 SDGsタスクフォース
- 14 RE100タスクフォース
- 15 環境負荷ゼロ容器包装タスクフォース
- 16 循環型社会の構築 容器包装リサイクル 17 食品ロスゼロ 食品リサイクル100%
- タスクフォース 18 循環型社会の構築 食品リサイクル
- 19 ワタミ人権方針タスクフォース
- 21 オーガニックタスクフォース
- 23 特集:ワタミのSDGsフラッグシップモデル 25 マテリアルバランス
- 27 サスティナブルマネジメントシステム
- 31 脱炭素社会の構築
- 37 従業員の幸せ日本一を目指して 40 陸前高田ワタミオーガニックランド 41 社会貢献活動
- 43 ワタミグループが支援する社会貢献団体 46 第三者意見













「ワタミは2010年に、外食業界として唯一、環境大臣とエコ・ファーストの約束を交わしました。また、エコ・ファースト企業とは、地 球温暖化対策、廃棄物リサイクル対策、生物多様性保全活動など、環境分野において「先進性、独自性、波及効果」のある事業を 行っている各業界における環境トップランナー企業です。2019年の約束更新時にはSDGs目標を加筆し、未来に向かってサス ディナブルな企業を目指しています。2024年10月にエコ・ファーストの約束を更新します。

エコ・ファーストの約束

∼環境先進企業として持続可能な社会構築に取り組む~

環境大臣 小泉 進次郎 殿

令和元年10月1日 ワタミ株式会社 渡邉美樹

|美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく|

ワタミグループは、事業活動(外食事業・宅食事業・食品製造事業・農業・林業・エネルギー事業)において 持続可能な社会構築を実現するために、環境法令遵守および環境負荷の低減を図ります。 また、SDGs を本業の中で実践し、エコ・ファーストの約束を達成します。

低炭素社会の実現に向け、省エネ・再生エネルギーの 導入により CO₂排出削減を推進します。







- 2040 年までに RF100 を達成します。
- 食品製造工場、外食事業店舗、宅食事業営業所、本社事務所で再生可能エネルギーの導入を推進します。
- 施設の設備改善や省エネルギー活動に努め、事業活動における CO₂排出を削減します。
- 有機農業および森林事業を拡大し、CO2削減効果拡大を図ります。2024年までに農業事業において CO2削減効果 4,200t-CO2相当(400ha)、森林事業において削減効果 8,400t-CO2相当(1000ha)を達成します。
- サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量を算定し(Scope1.2.3)、具体的な対策を講じます。

循環型社会の実現に向け、廃棄物の発生抑制と 資源循環を推進します。









- ■2024年までに食品製造事業(ワタミ手づくり厨房)を中心とした地域において、各地域のリサイクル事業者 生産者と連携し、食品リサイクルループを構築します。
- ■食品リサイクルを強化し、外食事業では60%、食品製造事業では100%の再生利用等実施率を達成します。
- ■食品ロス削減を目指し、外食事業においてお客様とのコミュニケーションにより食べきりを推進し、 2030年までに50%削減を目指します。
- 宅食事業においてエコ容器を使用し、使用済み容器の回収リサイクルによる資源循環を実施します。 ■2024 年までに全ての弁当容器にエコ容器(バイオマスプラスチック含有 10%以上を使用した容器)を採用します。
- ■お客様から容器を回収し、容器原料に再資源化する「使用済み容器リサイクルループ」を構築し、海洋プラスチック汚染を防止します。
- リターナブルビンのリユースを継続します。

自然共生社会の実現に向け、生物多様性保全活動を推進します。





- 有機農業に取り組むことで、土壌を保全し生態系を守ります。
- ■2024 年までに農業事業で有機農場 400ha へ拡大します。
- ■環境配慮型農業で生産された有機農畜産物を外食事業でお客様へ提供し、その有機・特別栽培食材比率を 60%にします。
- 持続可能な森林事業により、劣化した森林を回復させ、山地生態系の保全を図ります。
- ■2024 年までに森林事業(森林経営計画に基づく)を 1,000ha へ拡大します。

持続可能な社会の構築を目指し、 社内外で SDGs 達成のための教育を推進します。







- 全従業員に、ESD(SDGs を達成するための人材教育)を年7回実施します。 事業活動においては関係する取引先、お客様、地域社会とパートナーシップで SDGs の達成を目指します。
- 社会貢献や森林保全活動に取り組むため、ボランティア活動や「ワタミの森づくり」の活動を促し、 社会貢献・森林保全活動に取り組む公益団体(NPO 法人等)と連携を図りながら、毎年 2,000 名以上の参加を目指します。
- 小学生を対象として実施している北海道わたみ自然学校やワタミファームでの環境教育・食育活動など、 将来を担う子どもたちに対して ESD を踏まえた環境教育に努めます。

ワタミグループは、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

ワタミは、2019年にエコ・ファーストの約束を中心に置き「ワタミサスティナブル方針」を策定し、1999年策定の「環境宣言」、2018年策定の「SDGs宣言」を融合し、 環境だけではなく社会・経済にも貢献するものとしました。

■ 2023年度の進捗状況

2023年度は、コロナ禍による規制がなくなり、外食店舗は通常通りの営業を行うことができ、全事業が活動の中でエコ・ファーストの約束を果たせるよ う取り組みを実施しました。その中で、未利用食品やプラスチック容器の資源循環を継続して行い、リサイクル率は向上しました。お食事会のボランティ アを再開し、ボランティアに参加する社員が増加しました。これは、社員一人ひとりが意識し、エコ・ファースト活動に取り組んだことであると言えます。

カテゴリー	約束	2023年度進捗状況	自己評価	参照
	2040年までにRE100達成のために 再生可能エネルギーの導入を推進する	尼崎センターでRE100達成の他、電気使用量の 削減によって再生可能エネルギーの比率が増加 (8.9%、2022年度比3.4ポイント向上)	0	P14
1 低炭素社会の実現	施設の設備改善や省エネルギー活動に努め、 事業活動におけるCO2排出を削減する	各事業部に環境の取り組みの担当者(サスティナブルリーダー)を置き、CO2排出削減に取り組んだ。 ノンフロン機器の導入を行った。	0	P27
7 ************************************	農業事業において、4,200t-CO2相当の削減を図る	農業事業によるCO ₂ 削減3,197t-CO ₂	0	P7
	森林事業において、8,400t-CO2相当の削減を図る	SEFを通じた森林関与面積は86ha(726t-CO2)。 陸前高田市と協定を締結し、森林クレジットを 創出しカーボンオフセットを目指す。	Δ	P44
	サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量を 算定し(スコープ1、2、3)具体的な対策を講じる	スコープ算定の結果を踏まえ、サプライチェーンと 連携した対策を検討した	0	P31
	食品工場を中心とした地域において、各地域のリサイクル 事業者・生産者と連携し、食品リサイクルループを構築する	東京都大田区において、外食店舗での食品リサイクルループを構築した	0	P17
2	食品リサイクルを強化し、外食事業では60%、食品 製造事業では100%の再生利用等実施率を達成する	外食事業の再生利用等実施率46.3%と向上した 食品製造事業の再生利用等実施率100%	0	P18
2 循環型社会の実現	食品ロス削減を目指し、外食事業においてはお客様との コミュニケーションを図り2030年までに50%削減を図る	メニューを工夫することで食べ残しゼロ(食品 ロス削減)に取り組んだ	0	P17
12 3355 14 555°C	すべての弁当容器にエコ容器(バイオマスプラスチック 含有量10%以上を使用した容器)を採用する	ダイレクト事業部の弁当容器にバイオマスプラス チックを使用	Δ	P23
	お客様から使用済み容器を回収し、容器原料に再資 源化することで、海洋プラスチック汚染を防止する	弁当容器回収リサイクル率は61.4%に向上した	0	P16
	外食事業においてリターナブルビンのリユースを継続する	パートナー企業と連携し継続して取り組んだ	0	P16
	農業事業で有機農場を400haへ拡大する	有機JAS認証圃場は301haになった	0	P7
3 自然共生社会の実現	農業事業で生産された有機農畜産物を外食事業で お客様へ提供し、その有機特別栽培食材比率を 60%にする	有機特別栽培比率30.57%。グラスフェッドアイス や有機レタスなどキャンペーンを通してお客様に 有機野菜の提供を行った。	0	P22
2 *** 15 *****	森林経営計画 [※] に基づく森林事業を 1,000haへ拡大する(※森林再生活動に変更)	森林事業撤退のため、SEFを通じた森林関与 面積は86haと低迷。陸前高田市と協定を締結し、 森林関与面積の拡大を図る。	Δ	P44
4	全従業員に、ESD(SDGsを達成するための人材教育) を実施する	全体会議4回、幹部理念研修2回、創業祭、 SDGs会議12回、SL会議12回、計31回実施	0	P35
持続可能な社会構築 4550mm 12555 1550mm 175555	社会貢献や森林保全活動に取り組むため、ボランティア活動や「ワタミの森づくり」の活動を促す(毎年2,000人以上)	お食事会、ボランティアの再開もあり、500名が 参加した	0	P41
	小学生を対象として実施している、わたみ自然学校や ワタミファームでの環境教育・食育活動に努める	第25回わたみ自然学校を陸前高田のオーガニック ランドで開催し、36名の子どもたちが参加した	0	P35

◎…目標達成、 ○…前年度より進展があった、 △…予定より遅れている、×…進展していない

エコ・ファースト推進協議会 情報交換会

エコ・ファースト企業が持続可能な社会への実現に向け、会員企 業間の情報交換を実施しています。今回は、有機農業を1次産業 へ取り入れているワタミファームの有機農業を体験し、農業や 食品関連事業の企業に、生物多様性保全や脱炭素社会への具体 的な取り組みについての事例発表をしていただきました。



エコとわざコンクールに参加

未来を生きる子どもたちが、 持続可能な社会について考え るきっかけになることを目的 として開催しています。 ワタミ賞として、中田さんを 表彰しました。また、建設部の 小山さんのお子さんが応募し たエコとわざが「エコ・ファー スト推進協議会」優秀賞を受

賞しました。





「エコ・ファースト推進協議会|優秀賞

「エコでつくろう 地球の日傘」 小山 奈々さん(大田区立出雲中学校)

「鳴く蝉よりも 鳴かぬ蝉が 夏を悩ます」 中田 理仁さん(明星中学校)

SDGs タスクフォース

2015年に国連で193カ国が、2030年までの未来に向けた目標としてSDGsを宣言し、いよいよ折り返し地点に立っている現 在、世界の目標達成は厳しい状況です。新型コロナウイルスの世界的なパンデミックの影響も大きいものでしたが、それ以上に 国際紛争の広がりなど、SDGsの推進に暗い影を落としています。その中でワタミは未来の子どもたちのために、企業活動を通 してSDGsに取り組み、成果を出しています。

SDGs

2015年、193カ国の国連加盟国すべて が「誰一人とり残さないー No one will be left behind」を掲げ、持続可能な開 発目標(Sustainable Development Goals:SDGs) のための2030年アジェ ンダを発表しました。

SUSTAINABLE GOALS



■ 2024年の日本の世界の順位とSDGs17目標別の達成度

2024年は2023年の21位か ら3ポイント上がって18位で したが、目標 5・目標 12・目標 13・目標 14・目標 15 で深刻な 課題があるとされ、最低ランク でした。特に目標5「ジェンダー 平等」は先進国では最下位であ り、国会議員の女性比率の低さ と男女の賃金格差が問題とさ



■出典:Sustainable Development Report 2024

れています。その他の4つの目標は環境に関わる課題です。更に前年に比べ、目標4では生徒の学習到達調査 に関する評価が下がり、目標11では家賃負担の重い人々の割合が増えたことにより評価が下がっています。

■ ワタミ SDGs 宣言 「ワタミは SDGs 日本一を実現し、地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めます」

2030年のワタミのあるべき姿を目指すタスクフォース

2019年10月にSDGs推進本部を設立し、各事業本部から選出したメンバーによる、社内組織横断タスクフォース チームを組織しました。2020年にSDGsマテリアリティ(重要課題)を特定し、その課題解決と未来のワタミのある べき姿を目指して取り組んでいます。その進捗は毎月開催するSDGs会議で経営者層に報告して、推進のための提 言を受け、事業活動の中で実践しています。



品に切り替える

容器)の回収率80%

2030年KGI(最終目標)

外食:テイクアウト容器包装づ

ラスチックをすべて代替素材

字食:調理済製品容器(弁当

●循環型のビジネスモデルの確立

2035年までにすべての事業

所で再生可能エネルギー

●2040年までにRE100を達

自社だけではなく、ワタミを支える

サプライヤー・国内外ビジネス

パートナーに対しても人権デュー

ディリジェンスの仕組みを構築する

●サプライチェーン・消費者・地域

住民などステークホルダーとの対

話を継続的に行い、ダイバーシ

ティ・インクルージョンな組織づ

●商品購入者述べ100万人

●農業を通じた雇用と育成

50%導入

ワタミのマテリアリティ(重要課題)

宅食事業:「いつまでも 住み続けられる地域」に貢献

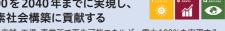
- 事業活動から発生する廃棄物を再資源化し、
- 地域資源循環社会を構築する。
- 弁当の宅配を通じて、高齢者の栄養補完で健康を守り、 見守りを含む自治体との協定により安全を図る。

農業事業・外食事業:

オーガニック農業生産の食材提供で、 地球環境と生産者・消費者の健康を守る。

- ●ワタミファームは有機栽培土壌面積拡大で、持続可能な農業生
- 外食店舗では、あらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間の提 供、そして安全安心な食材メニューで消費者の健康増進を図る。

RE100を2040年までに実現し、 脱炭素社会構築に貢献する



●すべての店舗、工場、事業所で再生可能エネルギー電力100%を実現する。

すべての従業員及びサプライチェーンで働く人たちの人権を 尊重し、国籍や性別・年齢・障がいの有無に関わらず、平等で 公正なそれぞれの能力を生かされた、

働き甲斐のある職場にする。 女性や障がい者、すべての人に働きやすい職場環境を整備し

●他企業と協働し、サプライチェーン全体で働く人たちの人権尊重を図る。

子育で支援や介護など働き続けられる制度を整備する。 従業員の能力開発や技術取得の機会を設ける。

13

(1次産業農業×2次産業加工×3次産業販売=6次産業) の食品ロスゼロ・リサイクル 100%

- ●ワタミファーム生産の農畜産物は100%利活用する。
- •食品工場の詰め残しを無くす。
- 外食店舗の食べ残しを、お客様とのコミュニケーションにより、ゼロにする。 各地で食品リサイクルループを構築し、商品廃棄ゼロを実現する。

KPI(中間目標)

タスクフォースチーム環境負荷ゼロ容器包装プロジェクト

- ●弁当容器回収リサイクルシステムを構築し、地域の廃棄物と焼 却によるCO2の削減、海洋プラスチック汚染防止に努める。
- ●ワタミ全事業で使用する容器包装の脱プラスチックを図 る。2024年度までに弁当容器回収率60%を達成する。

タスクフォースチーム オーガニックプロジェクト

- ●有機農業で生産した農畜産品で製品開発を行い、地球環 境と生産者の健康保全と消費者の健康増進に貢献する。
- ●地球環境保全する有機農業による生産を、消費者に啓発し 市場を拡大するために、農業体験ツアーを企画・実施する。

タスクフォースチーム RE100 プロジェクト

●2024年までに、外食店舗 RE100店舗を継続的に増や し、営業活動を通して、消費者や地域社会に啓発を目的と

したコミュニケーション活動を行う。 ●2025年までに食品工場に太陽光発電設備を設け、再生 可能エネルギーへの転換を図る。

タスクフォースチームワタミ人権方針プロジェクト

●2022年にワタミ人権宣言を策定し、従業員やサプライ チェーンで働く人たちへ啓発活動を行い、人権尊重への 意識の向上を図る。

2024年までに人権デューディリジェンスの仕組みを構築 し、サプライチェーンも含めた人権に関する負の影響を特 定・評価・予防・緩和・是正に努める。

●2023年までに食品工場の食品ロスを半減する。

食品リサイクルループを構築する。

●2024年までに外食店舗の未利用食材ロスを半減させる

●2025年までに食品工場を含む地域(福岡・山口・栃木)に

SDGs12.3:食品口スを半減する 食品ロスゼロ 食品リサイクル 100% プロジェクト

- SDGs12.5:食品廃棄を削減 持続可能な農業に貢献する
- SDGs12.8:お客様に「食べ残 しをしないライフスタイル |を 啓発する

○ RE100 タスクフォース

ワタミは「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」という環境宣言を具現化するために、秋田県にかほ市に風力発電装置「風民 (ふーみん)」による再生可能エネルギーをつくり、2018年にRE100を宣言しました。RE100タスクフォースはワタミすべての事業活動に再生 可能エネルギーを使用することを目標にしています。※RE100とは、再生可能エネルギーで事業活動を行い、CO2を削減する国際イニシアティブ

目 標

今後の課題

■ RE100タスクフォースのマテリアリティ (重要課題)

RE100を2040年までに達成し、



エネルギーをみんなにそしてクリーンに



SDG s 13: 気候変動に具体的な対策を

に貢献し、脱炭素社会を構築します。

■目標達成のための長期計画の策定

2040年までに全事業で使用する電気を再生可能エネルギー100%にす るための計画を策定しています。2023年度はグループの象徴的な2拠 点「和民のこだわりのれん街 大井町東口駅前店」と「ワタミ手づくり厨房 尼崎センター」に導入ができました。また、グループ内初の小水力発電へ の出資準備も進み2024年には建設開始予定です。今後の課題は、各事 業の中長期計画に沿った再生可能エネルギーの必要量の調達で、小水 力発電の他にもPPA(※)や新技術の導入を検討していきます。 ※「Power Purchase Agreement」の略。電力販売契約。発電者から長期間、



再生可能エネルギー電力による脱炭素社会の実現

2040年までにすべての事業所でRE100を達成

●外食店舗の RE100 を拡大する

電力削減

●全事業所での省エネ活動と省エネ機器への入れ替えを行う

●再生可能エネルギー導入コストを使用量削減(LED導入など)にて

相殺し、宅食事業の営業所、及び農場でRE100を実現する





広報

「和民のこだわりのれん街」大井町東口駅前店

風民(風力/秋田県にかほ市)

【ワタミ「RE100」の目標】

固定価格で再生可能エネルギーを購入する契約

①2040年までに事業活動で消費する電力の100%を再生可能エネルギーにします

②中間目標を見直し、2035年までに再生可能エネルギーを50%導入します

■ ワタミの物語を紡ぐ自然エネルギーについて ~ワタミモデルで大切にしている考え方~

ワタミモデルは100%再生可能エネルギーを使って事業活動をすることが目標です。その中で大切にしているのは、再生可能エネルギーの中でも 自然エネルギーを使うこと、また他の誰かがつくった自然エネルギーを使うのではなく、自分たちで新しくつくった(あるいは関わった)エネル ギーとすることです。これまでつくってきた「風民」や厚真・むかわメガソーラー、食品工場の屋根置きソーラー、これからできる小水力発電など、 ストーリーのある自然エネルギーを中心に計画しています。





(太陽光/北海道厚直町・おかわ町)

「ワタミ手づくり厨房」の屋根置きソーラー 水民(仮称) (水力/奈良県) (太陽光/埼玉県比企郡・川口県岩国市・兵庫県尼崎市) 2024年建設開始予定





ワタミオーガニックランドの

11 300 千 kWh は

東京ドーム 5個分 23ha の太陽光パネルが必要

■ RE100 達成に必要な再生可能エネルギーの 調達量と今後の新しい取り組み

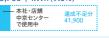
RE100達成に必要な再生可能エネルギーの量は年間 41,300 千kWh (2022 年度実績)で、現在その7割にあたる 30,000 千 kWh をワタミの風車「風民(ふーみん)」などから調 達できる予定です。残りの調達をワタミオーガニックランドの ソーラーシェアリングの面積で換算すると、東京ドーム5個分 (約23ha)が必要です。

また、円安進行によるエネルギー価格の高騰のリスクが高 まっており、この対策として PPA モデルが有効と考えていま す。再生可能エネルギーの調達がリスク対策にもなるため、計 画を前倒し、より早く進めていく計画です。

■再生可能エネルギー電力調達の現状と 2022年度の概算数値 ワタミ全体の電力使用量

ソーラーシェアリング 面積:0.7ha 発電量:500千kWh/年 本社・ワタミファーム700 再生可能エネルギー調達量 30,000千kWh

ワタミ全体の再生可能エネルギー使用量 3.700 千 kWh(9.0%)





■PPA モデル



発電者

山崎 輝

2023年度は新規に2拠点追加でき、新しい再生可能エネルギーである小水力発電建設までの目途を立てられ、今後の調達方

RE100 タスクフォースチームリーダーのメッセージ

法についても方向性が定まった年度となりました。引き続きグループの各拠点への導入を進めつつ、調達方法を固め実行して いきます。再生可能エネルギー導入の横展開には随所で事業部や現場の皆さんの力が必要です。これからもご協力をいただき ワタミエナジーながら皆さんとともに目標を達成していきたいと考えています。

○ 環境負荷ゼロ容器包装タスクフォース

外食事業ではテイクアウト容器、宅食事業ではお弁当などで、プラスチック製容器包装を使用しています。それらは地球の限りある資源である石油 を原料にし、更に焼却することで地球温暖化(CO2排出)や海洋プラスチック汚染の原因にもなります。ワタミでは、事業活動で発生する容器包装 においてできるだけ3Rに努め、サーキュラーエコノミー(廃棄を出さない循環経済)の実現を目指し、事業部横断での取り組みで推進しています。

■ 環境負荷ゼロ容器包装タスクフォースのマテリアリティ(重要課題)







目 的 サーキュラーエコノミー(廃棄を出さない資源循環型経済)の実現 目標 2030年までに石油系プラスチック容器包装を「ゼロ」にする

回収率向上・代替素材の開発・外食テイクアウト容器の 回収、リサイクル促進

社員への「3R+1R」意識づけ推進

2030年までに、事業活動で使用する石油由来のプラスチック 容器・包装を「ゼロ」にする。プラスチック容器の代替原料製品 の導入、既存容器の薄肉化、プラスチック製品にバイオマスプラ 混合を推進する。同時に容器包装メーカーなど取引先との協働 により、石油由来プラスチックに代わる新素材開発を目指す。

生産(工場)

2030年 までに

2027年

期末KP

外食: テイクアウト容器包装使用プラをすべて代替素材品へ 切り替える

宅食:調理済弁当容器の回収率を80%に上げる

外食:プラ容器・包装資材 代替品切替 38 SKU→30 SKU 宅食:回収率75%目標

(2023年60%→2024年65%→2025年70%)

外食: 薄肉化推進・リデュース化商品ソーシング・ 活動 開発・取引先との協力推進 内容 宅食: 営業部社員評価連動・お弁当手渡し推進・

新規顧客に回収協力依頼は所長対応

①新規製品導入

商品企画

外食全16業態各々で選定を行っていた容器・ 包装資材を写真付カタログ化

→ 新規導入の際カタログ内で選定を実施する

**	NO.4	328	8801	96		60	
-	-			AB.	10294	1604	
	OROZDANI	+1007-7110000003140	- CALORD		HILL W	401 E B	aniana makana
Ú.	- MANAGEMENT	*1PF-91GP#4D#	HIG-NE	10 818	HING IF	VLD NI N	ON MALERY
	(MARKET	*x4-246man 219	-9/12	25° WW	HN 0	10142 M	DIL BRANCS
	-	*xe-taumin yen	180-98	25 WW	1016 W	ATTES ME	BALL STREET
2	-	ANDRECES ANDRE	\$15.AC1-8088		-	HEADY B	Online:
1	-	*200000000	BC1-60	100 No.00	KIII #	1572 te	Onl making

容器カタログ化

②代替素材未実施品を選別し、量の多い順で下記a~cで見直し切替進める

a. 代替素材→バイオマスプラや紙製品への切り替え

廃棄(再資源化)

b. リデュース →薄肉化、小さくする

販売(営業所)

c.リサイクル原料品の導入→本来廃棄していた端材などを原料に





レジ袋のバイオマスプラ含有率 10%→25%



包装資材の整理(4SKU→2SKU)

本部のその他取り組み

容器回収のお願い

ご一緒に取り組んでいただけませんか

③取引先情報交換会 定例開催参加

新素材情報・価格情報を把握・検討する・複数社購買

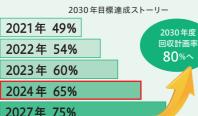
宅食事業の取り組み

調理済事業では23万食のお弁当を全国で 毎日お客様へお届けしています。その際、前日 の容器を回収して全国の協力会社との協働 でリサイクルしています。その回収率は2023 年度61.4%(前年比+7%)でした。2030年 は80%の達成へ向けて年度別目標を立案 し、大きくは下記4項目を活動内容とし進め ています。

- 1)評価連動し自分ごとと意識してもらう
- 2)新規のお客様へ所長が容器回収協力を 直接ご説明実施する
- 3)回収率の低い営業所へ本部主導で 勉強会の開催実施
- 4)まごころスタッフに向け通達ツールで 個別回収状況を通知

営業所独自の取り組み





回収計画率

各営業所では、今期末の回収率目標を設定し、達成にむけ活動 を行っています。営業所では、まごころスタッフへワタミの SDGs取り組みをご理解いただくために、リサイクルループや CO2削減量について、分かりやすく貼り出しをしています。

■ 2024年度の取り組み

外食事業

- ・新規導入包材の環境配慮型を検討します
- ・既存包材の代替品を新素材含め探し続けます
- ・経済合理性を加味し容器包装の業態共通化など横串しを刺します

宅食事業

- ・容器回収率65%達成します
- ·新容器を導入し、CO2削減とプラ容器削減を実現します

渡邉一昌

什入開発本部

環境負荷ゼロ容器包装タスクフォースチームリーダーのメッセージ

ワタミでは、ゼロカーボンに向けてこの活動を2017 年から継続して実施しております。

「プラスチックを使わない」と言葉にするのは簡単です が、実際の取り組みは難易度が高くゴールへの道筋は 見えません。ですが諦めず一歩ずつ目標に向け活動し 続けていきます。皆様のご協力を宜しくお願いします。

循環型社会の構築 容器包装リサイクル









容器包装は製品の品質保全などに必要ですが、ワンウェイプラスチック製容器包装は、家庭ゴミの増加や焼却処分時のCO2排 出、海洋プラスチック汚染の原因など大きな環境問題になっています。ワタミでは、外食事業のテイクアウトや、宅食事業の弁当 製造や販売に多量の容器包装を使用していますが、容器の軽量化や自主回収リサイクルによる資源循環に努めています。

■容器包装リサイクル法

1997年に完全施行された容器包装リサイクル法では、容器包装メーカー、容器包装を使用する製造者、外食や小売といった販売業者が使い終わった 後の容器包装のリサイクルを自ら行うか委託する、もしくは使用削減する義務があります。ワタミでは、宅食事業での弁当製造、ダイレクト事業での冷凍 惣菜製造や宅食営業所での販売、外食店舗でのテイクアウトの容器包装が対象となっています。宅食事業では、お客様の使い終わった容器を自主回収 し、リサイクルしています。自らリサイクルすることで国への委託費用を削減でき、コストの削減につながっています。

■ 容器包装使用量の推移(リデュースの成果)

ワタミでは、外食事業、宅食事業それぞれの容器包装の使用量の把握 と削減に努めています。外食事業では、テイクアウト業態の縮小による 容器包装の使用量減、宅食事業では弁当容器の薄肉化を行い、容器重 量を削減したことや、容器回収リサイクルが進んだことからプラスチッ ク使用量が2022年度と比較し、19%削減できました。

■ プラスチック新法

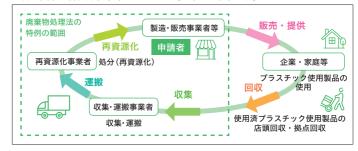
宅食プラスチック容器回収リサイクルの推進 (プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律)

2022年に施行されたプラスチック新法は、容器包装などプラスチック 使用製品の設計から使用後の廃棄やリサイクルまでの、すべての関係者 が資源循環を促進するための法律で、製造者の自主回収が可能になり ました。宅食容器自主回収は、廃棄物処理法の許認可を持たなくてもで きるようになりました。

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
外食事業	紙	635	1,406	6,104	6,500	2,116
	プラスチック	4,617	7,518	42,488	33,312	9,511
宅食事業	プラスチック	1,182,348	1,603,920	1,626,389	1,725,852	1,423,796
合計	紙	635	1,406	6,104	6,500	2,116
	プラスチック	1,186,965	1,611,438	1,668,877	1,759,164	1,433,307

■自主回収・再資源化事業のスキーム (法第39条第1項)

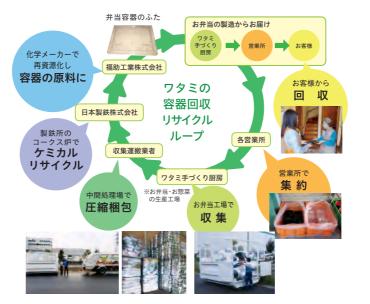
■容器包装使用量の推移(単位:kg)



■ 宅食のリサイクルの取り組み

お客様にお届けした弁当容器は、翌日まごころスタッフがお客様から回 収し、営業所に集めます。集めた容器は弁当配送の帰り便で、食品工場 に運搬し、圧縮した後、製鉄所に運ばれ、ケミカルリサイクルされます。 この取り組みによりプラスチックの廃棄物を減らし、CO2の排出量を減 らします。

■パートナーシップで取り組む宅食容器回収リサイクルシステム



■ 宅食の容器回収リサイクル率

宅食事業の2023年度の容器回収リサイクル率は61.4%でした。コロ ナ禍の期間はお客様への案内が難しいことがあり、回収率は横ばいで したが、コロナ禍の影響も緩和された他、①所長が初回説明時に容器 回収の説明を行う、②回収率の低い営業所は本部長による研修の実施 を行った結果、容器回収率は目標の60%を超えることができました。 2024年度も取り組みを継続し、容器回収リサイクルを推進します。

■宅食の容器回収リサイクル率



■ 資源循環の原点 ガラスびんのリユース



居酒屋で提供する日本酒のPB商品の容器には、ガラスびんを 使用しています。ガラスは食品容器として安定性が高くリユース 適正にも優れていることから、北西酒造株式会社と協働で「びん のリユースシステム」を展開しています。2009年から継続して 行っているこの取り組みが評価され、ワタミはエコ・ファースト 企業としての認定されました。

循環型社

3

13 SHERE: 14 ROBASE 14 PS)

日本では毎年約2,400万tの食品が廃棄され、その内500万t以上の食品口ス(まだ食べられる食品廃棄)が発生していることが課題です。しかしながら、外食業界での食べ残しを削減する「持ち帰り運動」や廃棄削減・リサイクルの成果報告はあまり見られません。原因は店舗での分別や、廃棄物に関

ワタミではお客様と一緒にSDGs12「つくる責任つかう責任」の目標達成を目指しています。

2025年までに、全店舗のゴミの計量実施による原因特定を行う 官会生産での惣菜詰め残し0にする 全宅食食品工場所在地でのリサイクルループを構築する

●自動発注による精度の向上による外食店舗の未利用食材の廃棄をなくす

●お客様とのコミュニケーションをとることで、食べ残しをなくす ●ゴミ計量器導入による毎日の計量、従業員意識の向上

ワタミファーム》 食品加工・生産》 外食企画・宅食企画》 SEF(食品リサイクル)

■ 2023年度の取り組みと実績

する慣習など多岐に渡ります。

外食39店舗+本社ビルで廃棄物の計量と食品リサイクルを開始しました。

○ 食品ロスゼロ 食品リサイクル 100% タスクフォース

今後の課題

- ①現状の把握をするため、廃棄物の組成調査(品目ごとの重量調査)を外食店舗サポート課が実施。
- ②(株)寺岡精工と新型計量器を開発し、実査したデータをクラウド管理する仕組みを構築。
- ③廃棄物処理料金を定額制から計量結果に基づく従量制への切り替え。
- ④計量結果から対策を立て、「大田区食べきり応援団」を通して食品ロスの発生抑制。回収回数調整による廃棄物コストの削減。

東京都の「サーキュラーエコノミーの実現に向けた社会実装化事業」に採択され、計量器を導入し、自分たちの取り組みが数値で把握できることで廃棄物の発生抑制に大きな影響を与えています。



■売上に対する廃棄物コストの割合



店舗で排出された食品残さは飼料に生まれ変わり、養鶏場で 給餌され、その卵を店舗で使用することでリサイクルループ が完成します。(2024年10月申請予定)

今後は飼料化に加え、堆肥化やバイオガス化等、様々な選択 肢を検討しながら全国に展開する予定です。

■ 2024年度の計画

国内外食30店舗での食品リサイクルの新規展開を行い、エコ・ファーストの約束通り、食品リサイクル率60%を達成します。

また、既存の食品リサイクル店舗で食品ロス削減の取り組みを様々な角度で実施します。

例)食べきり運動(店舗)

例) 食品ロスが出ないメニュー変更への挑戦 (本部) また、鶏卵を店舗で使用するスキームを構築し、リサイクルループを完成させます。 最初にスタートした大鳥居2店舗では計量することでコスト減となりました。可燃ゴミを「(腐る)生ゴミと(腐らない)可燃ゴミ」に分別することで、食品リサイクル分がコスト増になるところを可燃ゴミの回収頻度を下げ、収集運搬費を削減できました。また、運搬回数が減ることでCO2削減にもつながっています。



食品ロスゼロ 食品リサイクル100%タスクフォースチームリーダーのメッセージ

この魚はトラフグです。東京湾では、ここ数年で、急にたくさん釣れるようになりました。これが地球環境の変化によるものなのか、科学的な根拠はありませんが、温暖化が一因になっているのではないかと言われています。私たちが子どもの頃、元気に外で遊びまわった夏のあの日。今は外出

が制限されるほどの酷暑で外で走り回っている子どもはいません。このまま地球を住めない星にして良い訳がありません。それぞれの今の立場でできることを本気でやってみませんか?自分の子どもたちに自分が子どもの頃経験できた同じ思い出をつくれるようにしてあげたいと本気で考えています。共に現実を変えましょう。先ずはあなたのお店からです。



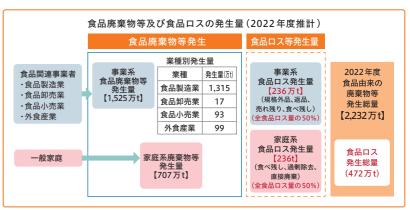
柳原 拓海 国内外食事業企画

循環型社会の構築 食品リサイクル

食料自給率が40%に満たない日本では、食料の多くを輸入に頼っているにもかかわらず、たくさんの食品を廃棄しています。 さらに、食品口スは地球温暖化や貧困、食糧不足、経済損失の要因の一つです。そこで、適量な食材の仕入れ、食べ残しの削減、食品残さを利用した食品リサイクルループの構築に努めています。

■ 食品廃棄等の利用状況(令和4年度推計)

農林水産省の推計では、令和4年度(2022年度)の食品由来の廃棄物は2,232万tで、そのうち食べられるのに捨てられた食品ロスは472万tでした。また、食品リサイクル法対象の食品関連事業者(食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業)の排出した食品廃棄物は1,525万t、家庭からの排出は707万tでした。食品廃棄削減は、ワタミのマテリアリティの一つであり、「食品ロスゼロ食品リサイクル100%タスクフォース」が、2030年までにSDGs12.3の目標でもある店舗から出る食品ロスを半減させるため取り組みを行っています。



出典:農林水産省・環境省資料

■ワタミの食品リサイクル実績

2023年度のワタミの食品リサイクル率の実績は、食品工場100%、外食店舗46.3%でした。ワタミでは食品ロスを削減し、さらに食品リサイクルループ 構築をすることで「食べ物を捨てない社会」を目指しています。現在、食品工場においては、東松山センター、中京センターで再生利用事業計画(食品リサイクルループ)の認定を取得しており、2025年度中に全センターで食品リサイクルループの構築を目指しています。外食では地域企業との協働で食品 リサイクルループの構築を進めており、2023年度は食品リサイクル稼働店舗を40店舗まで拡大しました。

食品廃棄物等の発生量(†)

食品循環資源の再生利用の実施量(t)

食品循環資源の再生利田等の実施率(%)

■食品リサイクル率推移(外食店舗・食品工場)



外食店舗	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
食品廃棄物等の発生量(t)	2,973	1,154	1,151	1,467	1,714
食品循環資源の再生利用の実施量(t)	586	263	195	278	321
食品循環資源の再生利用等の実施率(%)	46.1	44.8	33	41	46
食品工場 ※ワタミ手づくり厨房	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度

845

840

00.0

X41111-30-30-111-11111-1-11111-1-11111-1-11111-1-1111	77.0	100	100	100	100
外食店舗+食品工場	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
食品廃棄物等の発生量(t)	3,818	1,702	1,500	1,786	2,008
食品循環資源の再生利用の実施量(t)	1,426	811	544	597	616
食品循環資源の再生利用等の実施率(%)	63.1	76.5	75	74	74

※食品循環資源の再生利用等の実施率(%)は、当該年度の単純実施率に発生抑制を加味した値

548

548

100

■ 食品工場での取り組み

食品工場では、宅食事業やダイレクト事業の商品加工で発生する食品残さの発生抑制に 取り組んでいます。主な発生理由は、弁当生産では盛り込む量の調整不備による残惣菜、 冷凍惣菜ではお届け時の持ち戻りとなった食品ロスです。

2030年には工場での食品廃棄物の発生量ゼロを目標にし、排出する食品廃棄物は100%再資源化しています。今後は、全工場で再資源化された肥飼料から生産された農畜産物をお客様に提供する循環経済(サーキュラーエコノミー)を実現します。



■食品リサイクルループ

ワタミでは、店舗や食品工場から排出された食品残さを 飼料・肥料に再資源化し、それを使って生産された農畜 産物を仕入れ、再びお客様に提供する食品リサイクル ループを構築しています。

348

348

100

319

319

100

294

294



O ワタミ人権方針タスクフォース

■ 人権方針タスクフォース 2023 年度の取り組み結果

人権への負の影響を 防止軽減するための 取り組み

②人権デューディリジェンス

☑ 自社の人権 DD(デューディリジェンス)の 取り組みとして専門家の監修のもと、幅広い人権 リスクを考慮したアンケートを実施

③救済措置

✓ ヘルプライン、メンタルダイヤル、カウンセリング、 組合ダイヤル、会長直通ダイヤルなど設置

■ 人権方針タスクフォース 2024 年度の取り組み

「 サプライチェーン人権尊重の取り組み強化

サプライヤーアンケート (チェックシート)の作成 専門家との意見交換を実施し、 チェックシートの更新

①方針によるコミットメント

サプライヤー ダイアログ実施

☑ ワタミ人権方針 策定

サプライヤーアンケート の実施

2023 年度は、ワタミグループサプライヤーガイドライン同意書の回収率が 95%以上となりました。 2024年度は、さらに取り組みを強化し、アンケート(自主チェックシート)を作成し実施する計画です。

自社人権 DD の取り組み強化

2023 年度のアンケート 項目の分析

専門家との意見交換を実施し、 アンケート項目の更新

自社人権アンケートの 実施、分析、対策

2024 年度の 取り組みを公開

自社人権 DD の取り組みについては、2023 年度より実施していますが、2024 年度は専門家のアドバイスをもとに、 人権リスクをさらに幅広く網羅し、対象範囲を広げて実施してまいります。

自社ハラスメントガイドラインの作成

過去の自社内の 人権リスクの分析

ハラスメントに関する 対策コンテンツの作成 ハラスメントガイドラインの 作成

ハラスメント研修資料の 作成

2023 年度実施した自社アンケートをもとに、ハラスメント項目においては、負の影響を防止、軽減するための 自社オリジナルのガイドラインを策定する計画です。

ワタミの取り組みに対する講評

SDG パートナーズ有限会社 代表取締役 田瀬 和夫様



ワタミがビジネスと人権に、会社として真剣に取り組まれてい ることに心より敬意を表します。人権に取り組むということ は、見えるところも見えないところも、ビジネスのすべての面 で「人を大切にする」ということです。そしてそのためには組織 のトップ、経営層、管理職そして一般の社員のみなさまに至る まで、職員が仕事の中で人を大切にする重要性を理解し、行動

この点、ここまで担当役員の方、人権方針タスクフォースのみ なさんの強い決意でプロセスが着実に進んでおり、アンケート

緒させていただいている身としてここまでの進捗を高く評価 するものです。また、日本企業においては(1)過重労働や長時 間労働と(2)パワーハラスメントを含むハラスメントが構造 的に根深く残っている場合が多いのですが、現在自社ハラスメ ントガイドラインを策定する方向で活動をされていることは、 職員のみなさんの意識や行動を良い方向に変革していく上で 不可欠な要素とみています。

実施、リスク分析、他社やお取引先との対話も進んでおり、ご一

ここから先重要なことは、経営層や役員だけでなく、より幅広い 管理職のみなさんあるいは一般職員のみなさんが人権の重要性 を理解し、尊重し、また「声を上げられる」仕組みと環境と空気を つくり出すことであると強く思います。そうすることでワタミ はよりよい、そしてより強い会社になることを確信しています。

田田 武

ブランド広報室

に移さなければなりません。

2022年から人権方針タスクフォースの取り組みを開始し、専門家にアドバイスをいただきながら、人権 DD (デューディリジェンス)の取り組みをスタートすることができました。

当社においても事業活動を展開する上で、人権に対する負の影響が生じている可能性があるという認識のもと、 2024年度はさらに実行性のある取り組みを強化してまいります。

○ ワタミ人権方針タスクフォース

ワタミは「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」というグループミッションを掲げ ています。人が成長できる環境、もしくはそのきっかけを一つでも多く提供できる企業でありたいという思いから取り組みを推進してお りますが、その根底にあるのは基本的人権を守るということです。ワタミが事業活動を展開する上で人権に対する負の影響が生じている と判明した場合には、是正に向けて適切な対応をすることにより人権の尊重に努めています。

■ ワタミ人権方針タスクフォースのマテリアリティ(重要課題)

ワタミグループミッションの推進

2025年までに、ワタミグループの国内事業、および国内サプライヤーに 対して人権デューディリジェンスの仕組みを構築する

2030 年までにワタミを支えているサプライヤー・国内外ビジネス パートナーに対しても人権デューディリジェンスの仕組みを構築す る。サプライチェーン・消費者・地域住民などステークホルダーと の対話を継続的に行ない、ダイバーシティ&インクルージョンな組織 づくりを行う。







■ 人権方針タスクフォース 2023 年度の取り組みと実績

1. 公式 H P に公開



2023年1月16日 「ワタミ人権方針」を策定し ワタミの公式HPに公開し

ました。

2. 社内報でグループ従業員へ伝達



2023年1月25日 全グループ従業員 に発信している社内 報を通じて「ワタミ 人権方針 | を策定し たこと、またその意 味と思いをトップ メッセージとして伝 達しました。

3. 事業会社へ説明

2023 年各事業会社の研修会において「ワタ ミ人権方針」についての説明を行いました。



研修会の様子

■ 2023年度は、重点項目で掲げている「サプライチェーン上の人権尊重」の取り組みもスタート

「ビジネスと人権に関する指導原則」では、自社内部で発生しうる人権に関するリスクのみならず、サプライチェーンで発生しているリス クに対しても負の影響を防止または軽減するように努めることが求められています。

ワタミサプライヤー ガイドラインの策定

社会的責任の国際規格で ある「ISO26000」に基づき 専門家のアドバイスを 受けて策定します

モニタリング

サプライヤーに ガイドラインの周知を図り、 考え方をご理解いただいた 上で同意書に署名を求め、 回収させていただきました

ダイアログの実施

主要なお取引様と人権の 取り組みに関する 意見交換やフィードバックを 行いました。共に取り組みを 推進していきます

サプライヤーと共に 推進する取り組みの 進捗を公開し、 情報を更新しました

2023年10月 お取引様とサプライヤーガイドライン



2023年11月 極洋商事様と人権方針の取り組みに 関するダイアログを実施しました。

SDGs

情報開示

ワタミの公式HP 「ワタミグループ人権方針」

について意見交換を行いました。 サプライヤーガイドライン表紙

□ オーガニックタスクフォース

ワタミでは安全・安心な食材をお客様に提供したいという思いから、2002年より有機農業に取り組んできました。 有機農業のさらなる拡大、発展に向け、自然エネルギーを使用した循環型6次産業モデル(ワタミモデル)を構想。ワタミモデルの実現を通じて、 SDGs2.4持続可能な農業の達成と地球環境への貢献を目指しています。

ワタミファーム 外食商品 外食HR

- オーガニック農業生産の食材提供で地球環境と生産者・消費者の健康を守る

持続可能な農業の実現=生物多様性×脱炭素

①30by30のアライアンス登録を行い、 自社農場の自然共生サイト登録を進める

30bv30は、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に 保全しようとする目標。農薬や化学肥料を使用しない有機農業が生物多様性 保全に寄与することに着目し、自社の有機農場の生物調査を実施し、自然共生 サイト登録の申請を行います。

②有機農業で | - クレジット(CO2の吸収の価値を証書化)の発行を目指す

有機農産物の市場拡大

③社内外への周知活動

従業員を中心に収穫体験ツアーやボランティアを 実施します。2027年までに全社員が自社農場に関 わる機会をつくり、事実を伝え自らの言葉でお客様 や関係者様に話ができるように教育(ESD)を実施 していきます。

■ 2023年度の活動と成果

「持続可能な農業の実現=生物多様性×脱炭素」

①30by30のアライアンス登録を行う

2023年10月に、環境省主催の 30by30アライアンスに加入しました。 公益財団法人 Save Earth Foundation の協力を得て、北海道の美幌峠牧場を 自然共生サイト(OECM)登録に向け 地権者である美幌町と打ち合わせを行 い、申請についての合意を得ました。



②有機農業で J-クレジット(CO2の吸収の価値を証書化)の 発行を目指す

現在、自社農場にてバイオ炭※の実証 実験を行っているため、その進捗を確 認していきます。





バイオ炭施用の検討

有機農産物の市場拡大

③社内外への周知活動

2023年度はツアー、ボランティ アに延べ95名が参加しました。 「グラスフェッドミルクアイス」や ファームの野菜を使用した商品 のキャンペーンを実施し、従業員 が自ら話せる機会をつくってい ます。キャンペーン上位店舗につ

いては社内研修や 会議にて表彰を行 い、帰属意識の向上 やモチベーション アップにも繋がって います。





有機野菜を商品化

■ 2024年度目標と計画

[、]持続可能な農業の実現=生物多様性×脱炭素

①美幌峠牧場を自然共生サイトに登録する ための準備を行う

申請に向けて、 2024年度に牧場 内の動植物を確 認するための生物 調査を実施。



② J-クレジット(CO2の吸収の価値を ③農業体験による社内外への周知活動 証書化)の発行を目指す

オ炭の実証実験を 継続して実施。



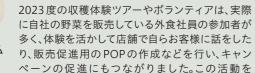
バイオ炭施用の開始

2024年度はツアー、ボ ランティアで200名の 参加を目指します。また ファーム野菜のキャン ペーンを継続し、引き続 き従業員が自ら話せる



機会をつくっています。 2024年もファームツアーを実施

オーガニックタスクフォースチームリーダーのメッセージ



2024年度は倍の200名の参加を目指し、より多くの従業員が自 分の言葉で話せるようになる機会づくりに取り組んでいきます。



ファーム担当者のメッセージ

持続可能な循環型有機農業を通じて「地域を 守る」「人を守る」「地球を守る」の想いを実現さ せていきます。2024年度の目標に掲げている 「自然共生サイトの登録」「J-クレジットの発行」 「有機農産物および加工品の市場拡大」を通し て、ワタミファームの活動内容と成果を情報発

信し、社内外に認知していただけるよう取り組んでいきます。

有機農産物の市場拡大

Topics

北海道 美幌峠牧場のグラスフェッドミルク100%使用 ワタミファーム グラスフェッドアイス新発売

北海道の美幌峠牧場では、300haの牧草地に300頭の乳牛を放牧し、グラスフェッド生乳を生産しています。美幌峠牧場は無農薬無化学肥料の草地で あり、自然共生サイト(OECM)への申請を進めています。北海道美幌峠の広大な牧場の有機牧草を食べて育ったグラスフェッド牛のミルクを100%使 用したすっきりとした味わいでミルク本来のおいしさが楽しめるアイスができました。サスティ

ナブルな製品・サービスを紹介する(株)オルタナと(一社)サステナ経営協会が共催する「サス テナブル★セレクション2023」において、最高ランクである3つ星を獲得しました。



2023 alterna

SUSTAINABLE SELECTION

BIHORO 牛にも 地球にも やさしい グラスフェッドミルクアイス

サステナブル★セレクション三つ星獲得

紡ぐ物語キャンペーン

ワタミファームの有機野菜・有機加工品を「紡ぐ物語キャンペーン」としてお 客様にオーガニックを知っていただく取り組みを行っています。第1弾はグラ スフェッドミルクアイス、第2弾は有機レタス、第3弾は有機トマトジュース、 第4弾はグラスフェッドさつま芋アイスです。従業員がオーガニック商品を自 らの言葉で語る機会となり、来店されたお客様10人に1人以上召し上がって いただきました。





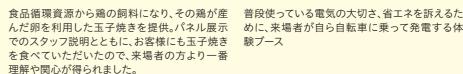
紡ぐ物語キャンペーンに取り組む従業員たち

SDGs AICHI EXPO に出展 2023.10.5~7 @Aichi Sky Expo

ワタミのSDGsの活動や、グループが支援する社会貢献団体活動を社外の方へ伝えるために、日本最大級のSDGs 推進イベントである「SDGs AICHI EXPO 2023」に出展しました。タスクフォースチームメンバーを中心に、活動の 取り組みと成果を展示しました。体験を通してワタミの活動を知っていただくブースをつくり、3日間で延べ14,058 名の方にご来場いただきました。













お米支援を紹介。月に1度10キロのお米を持っした! て帰る子どもたちの気持ちを体感するブースと なりました。



SAJで支援しているカンボジアの子どもたちの 愛知県の大村知事にもブースに来ていただきま

ワタミのSDGsフラッグシップモデル

2019年に「SDGs宣言」を通して、ワタミはSDGs日本一を実現し、地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めること を宣言しました。各事業部から選出したメンバーによる社内横断タスクフォースチームによる取り組みや、従業員一人ひ とりのSDGs目標や社員研修の場での教育を通し、認知度を高めました。本業を通したワタミらしいSDGsの取り組み を紹介します。

サスティナブル工場 尼崎センター

「ワタミの宅食ダイレクト」の冷凍惣菜工場として尼崎センターが2023年9 月より稼働しました。「ワタミの宅食ダイレクト」では、ワタミファームの有機 野菜や国産食材を積極的に使用しています。また食品工場での食品ロス削 減や省エネ活動なども行い、おいしさと環境負荷削減の両輪で事業を推進 しています。



ゼロカーボン、 ゼロエミッション工場の実現





\$ ***

■ゼロカーボンへの取り組み

RE100を目指すために、稼働時より電気使用量の削減と省エネ 活動を行い、2024年2月より尼崎センターの屋根に設置された 太陽光パネルで発電される電気を供給することができました。 (非化石証書での紐づけ)



■ゼロエミッションへの取り組み

尼崎センターでは、2030年までに食品ロスをゼロにする目標を 掲げています。初年度は食品廃棄量を把握し、2024年より対策 を強化しています。例えば、製造品目ごとの取れ高を記録し、次 回製造時のレシピに生かすなどの食品ロス発生防止策を、メ ニュー開発、製造、物流など横串を通して対策しています。

地球環境と生産者、 消費者の健康を守るための 商品開発



惣菜の原材料にはワタミファームの 有機野菜や、美幌峠牧場のミルクを 使うメニュー開発をしています。佐 原農場で育てた有機さつまいも「紅

はるか」でつくった「ワタミファームのさつまいもシチュー」など、 ストーリーと価値ある商品をお客様にお届けしています。化学肥 料を使わない有機野菜を多く使用することで土壌汚染や水汚染 を減らし、地球と人の健康を守ります。

社会貢献







■食品ロス削減と物流の効率化を図る

冷凍惣菜のお届けは、宅配便で行いますが、長期不在などの持 ち戻りが課題としてあります。商品発送時のリマインドメール や、一定期間受け取りできないお客様にはコールセンターから 連絡するなど、配達完了率を上げる取り組みをしています。 それでも返品されてしまう場合は、埼玉県庁と協業し、フードパ ントリー事業へ寄附を行い、ひとり親家庭など支援を必要とす る方へお届けしています。



Voice お客様に喜んでいただける 商品づくりを

宅食・ダイレクト事業本部 副事業部長 黒川 大輔

「ワタミの宅食ダイレクト」の特徴は、原材料へのこだわり と、手間をかけておいしくする調理方法です。自社工場を稼 働した理由は、自社農場で育てた有機野菜を製造委託先で 使ってもらうことが難しいことや、機械ではなく手作業で 行ったほうがおいしくなる手順を製造委託先の工場で実現 できないことがありますが、自社工場ではそれが実現でき るからです。お客様に喜んでいただける商品を作りたいとい う思いから、尼崎センターが誕生しました。

プラスチック容器を 環境負荷の少ない容器へ



お客様が廃棄・焼却した惣菜容器か らCO2排出を削減できるように、バ イオマスプラスチック10%含有して います。



ワタミのSDGsのフラッグシップ「和民のこだわりのれん街」



Voice SDGsのゴールに向けた 次世代型居酒屋モデル **堂業推准太部長**

コロナ禍から居酒屋業態を縮小し、焼肉業態へと転換を進 めていきましたが、コロナの影響が落ち着き業績が回復し てきたことから、祖業である居酒屋を見直したいという意 向がありました。特に「脱炭素社会・資源循環社会の貢献」 「従業員への環境教育」、輸入に頼らない「自社の一次生産 物を使ったメニュー開発」など、未来の地球を守る仕組み を取り入れ、働く従業員だけではなく、ご来店いただくお客 様へSDGsのゴールに向けて一緒に考えていきたい次世代 型居酒屋の「ワタミモデルの実現」として誕生しました。

照内 俊克

7つの業態が楽しめる居酒屋

コロナ禍で進んだ外食の「目的型来店」のニーズに応え、"のれん 街"の名のもとに専門性を持った7つの業態が集約した居酒屋と なり、大人から子どもまで食事を楽しむことができます。さらにお 店と関係する取引先、お客様、地域社会とパートナーシップで SDGsの達成を目指すモデル店です。















サスティナブル店舗









再生可能エネルギーを利用した循 環型6次産業モデルの確立に向け たモデル店が「和民のこだわりのれ ん街」です。秋田県にあるワタミの風

車「風民(ふーみん)」で発電したFIT電気を非化石証書と紐づ けし、再生可能エネルギーで店舗の使用電力を賄っています。 地域社会とパートナーシップでSDGsの達成を目指すモデル 店です。

■食品廃棄ゼロ=「Reエッグ」

店舗では、すべての廃棄物を計量・分析しています。どこから出 た廃棄物なのかを分析することにより、例えば厨房であれば無 駄な仕入れをしない、調理ミスを減らす取り組みを強化してい ます。しかし、どうしても出てしまう食品残さは、鶏の飼料の原 料にし、飼育した鶏の卵をメニューの材料にするリサイクル ループを構築しています。リサイクル卵は「Re エッグ」と名付け ました。

お客様と一緒に ネイチャーポジティブに貢献





ワタミファームの有機農業は、人間の健康だけではなく、生物 多様性を保全する農業です。お客様に食べていただくことでネ イチャーポジティブに貢献することができるので、店舗では自 社の農場でとれた有機野菜や鹿児島・カミチクホールディング スと取り組む持続可能な畜産、養殖による持続可能な海洋資 源利用など食材にこだわっています。

■広田湾漁協組合と協力して海を守る



ワタミが東日本大震災 の復興支援を継続的に 行っている岩手県陸前 高田市の広田湾漁業組 合と2023年11月に に関する包括連携協 定しを締結しました。お

客様に広田湾産のわかめを食べていただくことで、水産資源 保護や、漁業従事者などの支援に貢献します。

国産間伐材を店内で活用



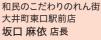
千葉県山武市の日向の森で、ワ タミ社員が森林保全活動で行っ た間伐材を、店舗の内装やラン チ営業で使用するトレイに利用 しています。間伐材の利用によ り、カーボンストック(CO2固定) ができます。



大井町東口駅前店 坂口 麻依 店長

Voice

「Re エッグ」は、アルバイトメン バーでも仕組みが分かりやすく、 お客様にも伝えやすいです。この ようなストーリーがある商品だ と、お客様とお話をするきっかけ となりやすいので、これからもど んどん商品として取り入れてもら えると嬉しいです!



環境実施計画 エコ・ファーストの約束として設定した行動指針に加え、省エネ法、改正フロン法、食品リサイクル法、容器包装リサイクル法の尊守事項に対し、2025年

ワタミグループ(海外事業と一部子会社を除く)は、外食事業、宅食事業、食品加工事業、農業、電力小売事業など、幅広い事業活 動を展開しています。環境への影響を、事業活動におけるエネルギーおよび資源の投入量(インプット)と、その活動に伴って発 生した環境負荷物質(アウトプット)で把握し、事業活動を通じて発生する環境への負荷の削減と適正な管理に努めています。

INPUT OUTPUT エネルギーの投入量(電気・ガス等の使用量)、水使用量に対し、発生するCO₂排出量、排水量を把握することに加え て、事業活動で発生する廃棄物の総量とリサイクル量を記載しました。(対象期間2023年4月~2024年3月)



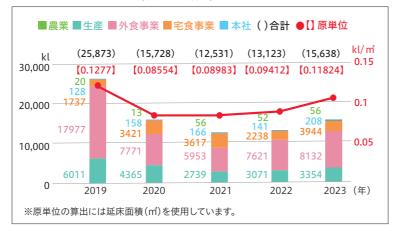
■ 省エネ法への対応

ワタミグループ (海外事業と一部子会社を除く)のエネルギー 使用量を集計し、定期報告を行っています。2023年度の原油 換算使用量は15,638Kl、原単位は0.1182Kl/㎡でした。 前年との比較では、原油換算使用量が119.6%へ増加、5年度

マテリアルバランス

間平均原単位変化は98.1%という結果になりました。 コロナの影響が無くなり外食店舗の営業が軌道に乗り出した こと、宅食営業所では土日の配達がスタートしたこと、給湯器 の導入がありエネルギー使用量が増加傾向になっています。さ らに尼崎センターが新たに稼働したため、生産工場のエネル ギー使用量も増加しています。しかし、グループ内のエネルギー の使用に伴って発生する CO2 は 27,195t-CO2 ですが、本社、 中京センター、尼崎センター、一部外食店舗を再生可能エネル ギーに切り替えたため、6%CO2排出量を削減できました。

■エネルギー使用量の推移(単位原油換算kl)



度までに達成すべき目標と環境実施計画を作成しています。進捗として2023年度の結果をまとめました。全体の半分以上が、昨年に比べ2025年度ま での目標に対し進展しています。しかし、フロン漏洩量の削減や食品リサイクル率の向上、グループ内のRE100達成に向けて対応の強化が必要です。

■ワタミグループ環境実施計画と進捗状況(2023年度)

行動指針	2025年9月末時点で達成すべき目標	2023年度計画	2023年度結果	自己評価	2024年度の行動計画
低	サプライチェーンを通じた温室効果 ガス排出量(スコープ1、2、3レベル)を 算定し、具体的な対策を講じる	CDP質問書への回答を継続し、 さらにSBTの準備を進める	CDP 質問書への回答し スコア B 獲得 SBT の情報収集を始めた	0	CDP質問書への回答を継続し、 SBTの準備をする
炭素社会の	RE100を達成するために再生可能 エネルギーの導入推進	東松山センターで再生可能 エネルギーの導入を図る	尼崎センターでRE100を達成。 電気使用量の削減によって、再生可 能エネルギーの比率が増加 (8.9%,22年度比3.4point向上)	0	宅食営業所へ再生可能エネルギ の導入を図る
実現	省エネ法努力目標の達成	省エネ法の啓発活動を継続し、 新規店舗、新規営業所でLED照明 や省エネ機器を導入する	各事業部にサスティナブルリー ダーを置き、CO2削減のための 対策や啓発活動に取り組んだ他、 LED照明の導入を行った	0	省エネ法の啓発活動を継続し、 サスティナブルプログラムシート エネルギーの使用状況を責任者が確認し、従業員へ教育を行う
	フロン類の漏えい量を削減	フロン機器の管理・点検を継続して行う。機器入替の際はノンフロン機器の導入をする	ノンフロン機器を 12 台 導入した	Δ	外食店舗と宅食営業所のフロン 機器の点検を継続し、フロン機器 類の管理フローを確立する
	全工場での食品リサイクルループの構築	福岡センター・岩国センターで 食品リサイクルループ構築を図る	福岡センター、岩国センターで構築 できたため、申請を24年度中に行う	Δ	福岡センター、岩国センターで食り リサイクルループ認定を取得する
	全工場での食品リサイクル100%の達成	維持継続	食品リサイクル率100%継続	0	維持継続
循環型	外食店舗の食品リサイクル率 60%の達成	大田区食品リサイクルループ構築を 図る。 食品リサイクル率50%へ向上させる	大田区店舗他、40店舗で食品 リサイクルループを構築し、 食品リサイクル率46.3%達成	Δ	食品リサイクルループ実施店舗を 30店舗拡大
社会の	外食店舗の食品ロス50%削減	電子化したロス伝票を使用した 未利用食材削減により、食品 ロス5%削減(2018年度比)を図る	電子化したロス伝票を使用した 未利用食材削減により、食品ロス 8%削減 (2018年度比)	0	電子化したロス伝票を使用した 未利用食材削減により、食品ロス 15%削減(2018年度比)を図る
実 現	宅食事業の容器バイオマス化推進	ダイレクト事業部(冷凍惣菜)で バイオマスプラスチック容器を使用	ダイレクト事業部(冷凍惣菜)でバイオ マスプラスチック容器を使用している	0	プラスチックに代わる代替品や プラスチック容器の薄肉化を検討する
	宅食事業の「使用済み容器の リサイクルループ」の構築	回収率60%を目指す	容器回収率61%を達成した	0	容器回収65%を目指す
	グループのコピー用紙使用量の削減	2022年度比15%削減	2022年度比15%削減の目標は 未達となった	×	2023年度比15%削減達成のため 複合機を減らす等の対策を行う
	グループの廃棄物の3R推進	計量実査店舗の拡大	計量実査店舗を40店舗に拡大した	0	2024年度、30店舗拡大予定
	有機農場を400haへ拡大	JAS有機認証圃場拡大計画の見直し	JAS有機認証圃場301haになった	0	JAS有機認証圃場310haへ拡大を目指す
自	外食メニューの有機特別栽培 食材比率を60%達成	有機特別栽培食材比率の 目標見直し	有機特別栽培比率30.57% グラスフェッドアイスや有機レタス等 店舗でキャンペーンを通し、 お客様へ有機野菜の提供を強化した	0	店舗でのキャンペーンを行い、 有機農産物・有機加工品の 市場拡大を図る
1然 共 生 社	森林事業※を1,000haへ拡大 (※森林再生活動に変更)	陸前高田市との森林保全協定を 締結し、自然共生サイト(OECM) 登録を目指す	陸前高田市とワタミエナジーと SEFで森林保全協定を締結し、 今後企業の森活動を行う予定	Δ	森林事保全活動を実施する 日向の森で自然共生サイトの 申請を行う
社 会 の	全従業員に、ESD(SDGsを達成するための人材教育)を実施	全社員に対し、ワタミモデルの 理解活動の実施	全体会議や研修会で理解活動を 実施した	0	全社員に対し、ワタミモデルの 理解活動の実施
実現	ボランティア活動や 「ワタミの森づくり」の活動を促す (毎年2,000人以上)	ボランティア活動の企画案内を 継続。コロナ禍で活動休止して いた森林(臼杵・丹波)での活動 を再開する	お食事会、ボランティアの再開もあり、500名が参加した 臼杵・丹波の活動は2024年度に 検討	Δ	ボランティア活動の 企画案内を継続
	小学生対象として実施している わたみ自然学校やワタミファーム での環境教育・食育活動の実施	「第25回陸前高田わたみ 自然学校」を開催する	「第25回陸前高田わたみ 自然学校」を開催し、36名の 子ども達が参加した	0	「第26回陸前高田わたみ自然 学校」を開催する

◎…目標達成。 ○…前年度より進展があった、 △…予定より遅れている、×…進展していない ※2024年4月末時点

マテリアルバランス5年間の推移

2020年、21年は店舗の営業時間短縮 や休業から排水量や廃棄物量も全体的 に減少した傾向がありました。各事業、 コロナ禍での食品ロスや廃棄物、排水の 削減の取り組みを推進したことにより、 コロナの影響がなくなった2023年度で もコロナ前の推移に戻ることなく、減少 していることが確認できました。これから も、排水、廃棄物の削減に向け、各事業で 取り組みを推進していきます。

■排水量の推移(単位千㎡)



■廃棄物量の推移(単位t)



サスティナブルマネジメントシステム

クタミは1999年に、外食業界では初めて1SO14001の認証登録し継続しています。2019年からは、SDGsの達成を /目指じて、サスティナブル影響側面を抽出し実施計画を立て、各事業活動の中でPDCAサイクルを回しています。

















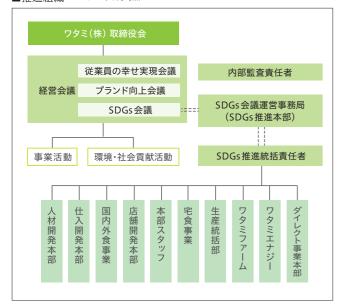




推進体制

各事業および、各子会社の責任者は、SDGs推進統括責任者として、サ スティナブルな視点で事業を推進しています。また、各サイトにサスティ ナブルリーダー(SL)を任命し、従業員一人ひとりが実践できるよう周 知をし、計画の PDCA を回しています。 SDGs 推進本部が事務局を担 い、各部門のサスティナブルプログラムの有効性を確認し、毎月トップ マネジメントへ報告をしています。2023年度はダイレクト事業本部を増 設しています。

■推進組織 ※2024年5月時点



■ サスティナブルリーダー(SL)会議

グループの各事業責任者(SDGs推進統括責任者)とSLは、年度の初 めに自部署の標準業務および業務計画の側面からサスティナブル影響 (SDGs項目に対する変化)を抽出します。さらに、抽出した項目を SDGs17目標に照らし合わせ、著しい影響として評価し、サスティナブ ル実施計画にて目標管理をします。進捗は毎月SL会議にて、事務局の SDGs推進本部長に報告し、ISO14001の規格に遵守しながら課題解 決を図っています。その経緯と結果をトップマネジメントへ報告してい



内部監査

ワタミの環境関連法令遵守と各サイトのPDCAの有効性を確認するた めに、年1回内部監査を行っています。内部監査員は社外の有資格者に よる2日間の研修を終了後、効果測定を受け適性と知識習得が認めら れた社員が任命されています。

2023年度は、2023年11月から2024年2月にかけて実施し、 いくつかの課題が発見されました。

- ●宅食営業所の廃棄物管理と設備機器の点検状況、 SDS(安全データシート)の設置の意味の周知。
- ●外食店舗の避難経路動線上の整理整頓(阻害物有り)





マネージメントレビュー

PDCAの要諦であるマネージメントレビューで、1年間のサスティナブ ルマネジメントの活動と成果の報告、および内部監査の結果報告を、渡 邉会長や取締役に行いました。

2023年度のマネージメントレビューでの渡邉会長からのア ウトプットは次のとおりでした。

ほとんどのサイトはPDCAサイクルにより実施計画を着実に進 め、目標管理ができている。

ただし、目標達成ができていない項目においては、将来にわたるグ ランドデザインや具体的な施策が詰め切れていない。目標値の設 定も含めてしっかり見直しをすることが必要である。

内部監査が適切に行われ、いくつかの不適合が発見されたが 迅速 に適正処置が取られた。ただし、避難経路の阻害物などの重要な 課題が残っている。継続的な改善を現場と本部でコミュニケー ションを取って進めていくことが必要である。

ワタミファームの目的の一つである農地拡大について、東御農場 では、農家の高齢化など様々な理由で農地を手放したい人が増え ている。この先さらに農地の放棄が増えていくことが予想されるの で、農家の要望に応え最大1,000haの農地拡大を目指したい。



マネージメントレビュ-

ISO14001 定期審查 (審查機関:日本環境認証機構 JACO、審查日2024年6月4日~6月13日)

2023年度は外部審査機関による継続審査を受け、無事に認証登録を継続できました。評価された項目と、改善への指摘をされた項目がありました。

審査機関から評価された項目

- 環境負荷削減を目的とした活動から、 「事業を通じた顧客・社会貢献を拡大 し、その中でSDGsの課題解決を目指 す」ことに繋がる新しい事例が確認で きた。
- ■環境担当からだけではなく、マーケティ ング担当者をSLに選任(ダイレクト事 業本部)することで、事業のステークホ ルダーへの影響が期待できる。
- 従来の「社外から好評価を獲得する視 点」に加えて、評価項目を通じて、「今後 の社会のニーズを把握し、活動の反映 する視点」に視野が拡大している。
- 活動が外部から評価された。(日経「SDGs 経営」調査での四つ星獲得)

改善を指摘された項目

- 事業を通じた活動を進めるために、部署間のコミュニケーショ ンに工夫を凝らすべきである。
- ■店舗からニーズに沿った有機作物を提案するなど、双方向のコ ミュニケーションの検討
- □ 今後よりサスティナブルで有効な事業活動にするために、部署 を超えて、他部署の好事例を展開するなど、検討して欲しい。







全取締役が参加するオープニングミーティング

TGIフライデーズでの審査

■ 部門ごとのサスティナブル側面と影響および、実施計画

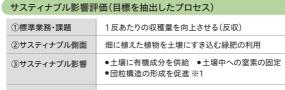
①標準業務・課題・・・各部署の業務と当該年度の課題(新法令、社会状況の変化などを含む) ②サスティナブル側面・・・・①の業務・課題に関するSDGsの要素(原因) ③サスティナブル影響(有害な影響、有益な影響)…②から生じる SDGs 項目に対する変化(結果) ※②と③は、原因と結果の関係性 4) 影響評価…SDGs17項目、169ターゲットに関係する項目を決定する。

⑤2023 年度 サスティナブル課題および目標·・・サスティナブル方針に整合した課題とそれに対する目標値

⑥実施事項…目標を達成するための取り組み、行動計画 7進捗監視…実施事項の進捗 8評価・・・実施事項に対する進捗状況評価

92024年度課題および目標…2023年度の実績を踏まえて、2024年度の目標を記載

ワタミファ



※1:回粒構造:個々の土壌粒子が団粒を作っており、ばらばらに存在している単粒構造に比べ、通気・通水性・保水性もすぐれ、土壌生物の活動や植物生育に良好

持続可能で地球環境配慮型農業を推進する 4)影響評価 **O E**

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

有機農業に取り組み土壌改善を行うことで生態系を守り反収向上 を図り、温室効果ガス削減効果も明らかにし、お伝えしていく

反収を向上させる 目標値:1.723kg 反収実績については、レタスなどの収穫量増があり、11 月時点で目標値 ⑦進捗監視 を達成することができた。12月以降、きく芋の収穫が山武、佐原農場で 収穫ができなかったこともあり、通年で未達となった。 未達成:実績反収1.492 kg (達成率:86.6%)

92024年度課題および目標 反収目標…1,666 kg、管理面積…550ha

有限会社ワタミファーム

ワタミファームの農産物は農林水産省が推進する温室効果ガス削減「見える化」実証事業で、三つ星ラン クの最高評価をいただきました。このように高い評価をいただいているワタミファームの有機農業をより 広く皆様に伝えていく活動をしていきます。長年の地域との良好なつながりにより、新たな農地の管理を 依頼されることも増えており、そのような積み重ねが管理面積の拡大につながっています。

仕入開発本部

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス) 1標準業務・課題 外食事業、食品工場での包材備品の調達 環境配慮型包材への切替 ②サスティナブル側面 ●リデュース品(減プラ) ●代替素材使用品(紙、バイオ マス等) ●リサイクル品 ③サスティナブル影響 ●海洋プラスチック汚染の防止 ●製品の製造から焼却に伴うCO₂抑制 4)影響評価 容器包装を選ぶ際は地球環境に配慮する

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

2030年までにワタミグループで使用するプラスチック製の 消耗品を全量環境配慮型へ切り替える

⑥実施事項 目標 外食:環境配慮品比45% 食品工場:2018年度比15%削減 結果 外食:環境配慮品比47.3% 食品工場:2018年度比26.8%削減

92024年度課題および目標

環境配慮品導入に統一

外食:環境配慮品比50% 食品工場:環境配慮品比30%

サスティナブルリーダー 仕入開発本部 天笠 翔太



2023年度から、外食は環境配慮品の定義を定め、比率を上げていくことを進捗監視にしました。定義付 けを行うことで調達基準が明確となり、お取引先様と積極的に目標に向けて行動ができました。2024年 度では食品工場も環境配慮品比を上げる目標にしています。環境と経済が両立できる商品を調査・開発し 積極的に展開していきます。

①標進業務・課題 店舗運営・洒類の提供 ②サスティナブル側面 売れ残り、食べ残し、生ゴミの発生 ③サスティナブル影響 ●廃棄物運搬・焼却処分に伴うCO2排出の抑制

④影響評価 食品口ス削減と食品廃棄物のリサイクル推進



サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)



ロス伝アプリの システム画面

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

●食品リサイクル:食品リサイクル率46%達成 ②食品ロス:食品ロス2018年度比5%削減

●食品リサイクル導入 40 店舗 ●ロス伝アプリ稼働による食品ロスの見える化と削減 ●食品リサイクル店舗の導入推進●食品リサイクルに関わる協力会社様との連携●ロス伝アプリの活用とさらなるシステム改善 ⑦谁捗監視 達成・・・・・食品リサイクル40店舗導入 ●食品ロス 2018 年度比 30%達成 (売上 100 万円あたり 42.3kg)

ながら企画・実施・情報共有をすることで削減につなげていきます。

②食品ロス2018年度比38%削減 (売上100万円あたり37.4kg)

サスティナブルリーダー 国内外食事業部 大月 祥恵

食品ロス削減に向けて、システムを用いることで食品ロスの実態を見 える化していきます。食品ロスデータをもとに、本社と店舗で連携し

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

容器回収リサイクルの促進(目標回収率 60%)

容器回収率の向上(目標60%)

営業所の周知とお客様への周知

達成…容器回収率 60%

92024年度課題および目標 容器回収率65%

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	お弁当のお届け
②サスティナブル側面	使用済み弁当容器
③サスティナブル影響	●海洋プラスチック汚染問題の防止 ●廃棄に伴うCO ₂ 排出の削減 ●地球温暖化防止
④影響評価	使用済み容器を回収リサイクルすることにより、 地域の廃棄物を削減し、資源循環を推進する

U信华耒務*誄越	の升当のお油り
②サスティナブル側面	使用済み弁当容器
③サスティナブル影響	●海洋プラスチック汚染問題の防止 ●廃棄に伴うCO ₂ 排出の削減 ●地球温暖化防止
④影響評価	使用済み容器を回収リサイクルすることにより、 地域の廃棄物を削減し、資源循環を推進する
	2 255

サスティナブルリーダー

· 以际华未伤 · 沐园	のガヨのの曲り
②サスティナブル側面	使用済み弁当容器
③サスティナブル影響	●海洋プラスチック汚染問題の防止 ●廃棄に伴うCO ₂ 排出の削減 ●地球温暖化防止
④影響評価	使用済み容器を回収リサイクルすることにより、 地域の廃棄物を削減し、資源循環を推進する

回収した容器

⑥実施事項

⑦進捗監視



宅食事業本部

Saturdillital

事

2023年度は目標60%に対し、達成することができました。これも営業所の皆様が未来の ことをお客様に伝え、お客様が取り組みに対して賛同して下さった結果です。今後もワタ ミの活動をより多くの方に知ってもらい、2024年度の目標として65%を達成できるよう に、お客様へのアプローチの仕方を多方面から考え、一人でも多くのお客様に推進と賛同 をしてもらいます。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	食品工場での廃棄物管理
②サスティナブル側面	食品廃棄物の排出
③サスティナブル影響	●廃棄物焼却処分に伴うCO2の排出抑制・汁きり不足による水質汚染の防止
④影響評価	食品廃棄物をゼロにする 2 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

食品再生資源(食品廃棄物)の発生抑制を1万食あたり45kgにする

	⑥実施事項	食品再生資源の発生を抑制する。
	⑦進捗監視	●5センター(食品工場)によるSDGs会議の実施 ●不定数量原料の出庫方法の統一 ●廃棄量・製造取れ高が多い食材のレシピ修正
	⑧評価	達成…1万食あたり43.2kg (達成率104%)

92024年度課題および目標 食品再生資源(食品廃棄物)の発生抑制を 1万食あたり40kgにする

サスティナブルリーダー 東松山センター盛り込み 松本 祐二



SLとしてSDGs活動に携わらせていただき1年が経ち、2023年度の目標は達成することができました。目 標を達成できたのは、宅食生産本部・宅食企画開発部・宅食製品開発部が協力し様々な改善を実施してき たからです。2030年度にはゼロにするという最終目標を掲げていますので、2024年度以降も最終目標達 成に向けて逆算で考えて改善を進めていきたいと思います。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務•課題	店舗の工事(新店・改装・撤退・メンテナンス)管理
②サスティナブル側面	冷媒ガス使用機器の導入や廃棄
③サスティナブル影響	●温室効果が大きいフロンガス管理●地球温暖化防止
④影響評価	フロンガスの適正管理により、地球温暖化への影響を 抑制する 2

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

フロンは本の満立と国の士針に外ったフロンの海正答理

ノロノ広ヤ	プロン広市の受付と国の方面に沿つたプロンの適正官理					
⑥実施事項	⑥実施事項●各店舗の機器リストと整備記録簿の作成と更新●フロンガス漏えい量の報告●定期点検の実施					
⑦進捗監視	・機器データの更新管理 ●工程管理表の管理●ノンフロン機器の導入					
⑧評価	達成…機器管理フローにより関係部署が連携し適正に管理できた					

92024年度課題および目標

宅食営業所のフロン機器管理状態 100%達成(撤退含む)

サスティナブルリーダー 店舗開発本部 建設部

既存フロン機器の管理とともに、ノンフロン機器の情報収集に取り組み、2023年12月より冷蔵機器のノ ンフロン製品導入を開始。撤退店舗のフロン機器処理についても適正な管理を実施。宅食営業所のフロ ン機器管理については2024年度に課題が残りました。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	本社ビル管理		
②サスティナブル側面	事務用品管理(コピー用紙)		
③サスティナブル影響	焼却処分に伴うCO2排出の抑制地球温暖化防止		
④影響評価	紙を使わない業務の推進により廃棄物の抑制と CO2の発生抑制を従業員と共に目指す		
	12 15		

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

●ワタミグループ全体で、2030年度までに、業務で使用する紙をゼロにする ②環境負荷低減について、従業員への啓発活動の中心となる部署となる

⑥実施事項	本社での紙使用量(前年度比 15%削減)本社での電気使用量削減(前年度比5%削減)					
⑦進捗監視	・複合機の適正配置見直し→1台削減 ◆複合機のパネル設定済・従業員への周知活動→朝礼等での進捗報告					
⑧評価	未達成…●紙 - 164,000 枚 / 昨年対比 89.0% ●電気 + 85,886kwh / 昨年度対比 112.3%					

92024年度課題および目標

●本社での紙使用量(前年度比 15% 削減) ❷電気使用量削減(前年度比-5%削減)

サスティナブルリーダー 人材開発本部 総務部 中村 七重

人材開発本部

ワタミエナジ

本部スタッフ

ダイレクト事業本部



紙使用枚数について、昨年より削減目標を高く設定したため、目標達成が難しかったですが、複合機のパ ネル表示にて個々人の意識をより向上できていると感じます。また複合機台数削減にご協力いただき、あ りがとうございました。電気使用量削減について、気候変動の大きかった一年ではありましたが、状況をよ りわかりやすく伝えていき、推進を継続していきます。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務•課題	エネルギー問題への社員啓発	
②サスティナブル側面	●再生可能エネルギー 100%電気の供給の拡大 ●でんきの切替促進	
③サスティナブル影響	●地球温暖化の抑制●再エネ電力普及に伴うCO2削減	
④影響評価	事業を通して再生可能エネルギーについて 啓発活動を行う。 7	

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

●グループ内への再生可能エネルギーの供給 2社外へ「再エネ100プラン」の拡大 50拠点

⑥実施事項	●営業所の切替 ②「再エネ100プラン」導入済みのお客様に追加拠点を依頼
⑦進捗監視	●2拠点導入完了 ②400件導入完了
⑧評価	①未達成…来期にずれ込み②達成…達成率800%、大幅達成

⑨2024年度課題および目標 ●グループ内への再生可能エネルギーの

供給(営業所10拠点) 2社外へ「再エネ100プラン」の拡大

新規28拠点(合計428拠点)

サスティナブルリーダー ワタミエナジー株式会社 渋木 佳代



2023年度は、新たにグループ内の2拠点に再エネ100%の電気を供給することができました。また、外部 のお客様への再エネ100%の電気の販売も多くのお客様に受け入れていただき、目標を大きく上回る結 果でした。これらを踏まえて2024年度は、より再エネの調達に注力するとともに、サスティナブル課題お よび目標を社員により浸透できるように活動していきます。

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

TO TO TO TO BE IN COMMON TO THE COMON TO THE COMMON TO THE COMMON TO THE COMMON TO THE COMMON TO THE				
①標準業務•課題	月次·決算業務			
②サスティナブル側面	●会議資料や伝票出力による紙印刷物の発生			
③サスティナブル影響	森林の減少抑制紙焼却処分によるCO2排出の抑制			
④影響評価	環境に対する意識向上に伴い、日常業務での紙の使用 枚数を抑制し、廃棄物・CO2発生抑制につなげる			

紙の体田県削減

心の反而生	איינים
⑥実施事項	啓発による紙使用量削減(前年比▲2%)
⑦進捗監視	部員への周知活動 使用枚数の把握・共有・注意喚起
⑧評価	達成…前年比▲12%

92024年度課題および目標 紙の使用枚数前年▲5%





2023年度の目標を達成できたのは、部員の意識向上と支払伝票出力停止や調書の紙面提出の停止等、 紙を印刷しない仕組みが作れたことが大きな要因と考えています。2024年度は会計システム入れ替えに 伴い伝票の出力をしない方向で動いていく予定なので、引き続き削減できる仕組みを構築していきます。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

②サスティナブル側面	●食品廃棄物の排出 ●配送時の食品ロス●容器包材のCO2排出				
③サスティナブル影響	●貧困格差をなくし健康に ●廃棄に伴うCO2排出の削減 ●自然と共存し、地球環境を守る				
④影響評価	地球環境に配慮しながら、お客様に安全・安心な商品を お届けする				
	1::. 2::: 3:::: 12:::: 12::: 14::: 15::: 17::: 17::: 18:: 17::: 17::: 18:: 17::: 18:: 17::: 18:: 17::: 18:: 18				

冷凍惣菜の企画・製造・販売

サスティナブルリーダー ダイレクト事業本部

①標準業務・課題



2023年度9月よりダイレク ト事業部は活動に参加し、サ スティナブル課題に対し目標

設定を行いました。商品の販売を通じてお客様にサスティナブル な活動を伝えて、この活動がダイレクトの商品を選ぶきっかけの 一つとなるよう、尽力していきます。有機野菜や国産食材へのこ だわりは他社との差別化になります。よりよい取り組みを強化 し、お客様に喜んでいただける商品作りに努めていきます。

⑤2023年度 サスティナブル課題および目標

- ●主菜原料の有機・特別栽培食材・国産食材の使用比率現状把握 2配送時の食品ロス現状把握
- ❸容器包装に関わるCO₂換算量現状把握
- **A**RE100

⑤食品工場での食品廃棄量を1万食あたり40kgにする

⑥実施事項	●ワタミファームおよび国内の農場、漁港などの生産地との関係性構築 ●配送業者と協力体制構築、寄付先の手配、再配達率の向上 ●容器薄肉化の取り組み ●電気使用量把握 ●盛り込み制度向上				
⑦進捗監視	●商品開発、原価調整 ●廃棄数、持ち戻り数の把握、持ち戻り品の寄附 ●包材の新規提案、薄肉化テスト ●電気使用量把握 ●盛り込みライン食数管理				
⑧評価	達成… 4 RE100達成 他、現状把握				

92024年度課題および目標

- ●主菜原料の有機・特別栽培食材・国産食材の使用比率を30%にする
- ②配送時の食品ロスを前年比30%減
- 6 容器包装に関わるCO₂換算量を3%削減する
- 母食品工場での食品廃棄量を1万食あたり30kgにする

脱炭素社会の構築

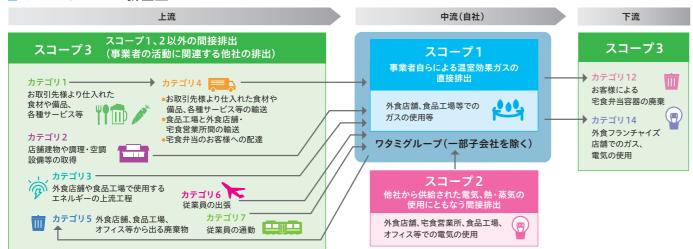


脱炭素社会を目指すために、温室効果ガスの排出を抑制すると同時に、排出された二酸化炭素を吸収し、実質的に温室効果ガス ゼロを目指しています。地球温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」では、世界の122の国と地域が参加し、温室効果ガスの排 出量を今世紀後半に実質ゼロにすることが目標に掲げられています。日本でも、2030年には温室効果ガスを2013年度比で 46%削減、2050年にはカーボンニュートラルを実現することを目標にしています。ワタミグループもカーボンニュートラル宣言を 行い、脱炭素社会の構築に向けて、段階的かつ具体的な対策を講じています。

■ サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量

ワタミグループ(一部連結子会社を除く)は、国内外食事業をはじめ、海外外食事業、お弁当宅配の宅食事業、外食や宅食事業を支える仕入・物流・食品工場部門、 農業、電力小売事業などの事業を行っていますが、さまざまな資源やエネルギーを使用することで、環境に影響を与えています。その環境負荷は、直接管理 するものだけでなく、原材料の調達から商品の製造、物流、販売、廃棄、リサイクルに至るまでのサプライチェーンの各段階におよびます。各段階における環 境影響を把握し、低減または相殺する方法を検討していくための基礎となるのが、温室効果ガスのサプライチェーン排出量算定です。2018年度から算定を 開始し、自社およびサプライチェーンにおける温室効果ガスの排出量の把握を行ってきました。2023年度はコロナ禍後の業績回復に伴い、グループ全体で の温室効果ガス排出量は増加しましたが、外食事業で食品リサイクルの実施、宅食事業で容器回収リサイクル率の増加、新規開設のダイレクト事業部尼崎 センターで再生可能エネルギーの導入を通して温室効果ガス低減に取り組んでいます。(算定から除いた会社:WATAMI USA GUAMU、(有)当麻グリーンライフ、ワタミカミチク(株))

■ サプライチェーン排出量

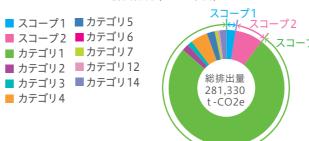


温室効果ガス排出量まとめ(温室効果ガス:二酸化炭素、メタン、フロンガスなど)

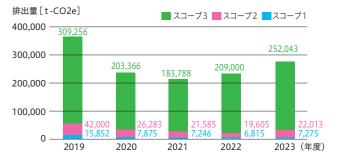
2023年度排出量は、2024年9月末時点暫定値 排出量[t-CO2e]

		2025		M L Z L 31	
	スコープ/カテゴリ	ワタミグループでの対象活動	2021年度 排出量	2022年度 排出量	2023年度 排出量
サプライチェー	ン排出量				
スコープ1	自社での温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼等に伴う)	外食店舗、食品工場等でのガスの使用等	7,246	6,815	7,275 ×1
スコープ2	■ 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出	外食店舗、宅食営業所、食品工場、本社等での電気の使用	21,585	19,605	22,013 ×
カテゴリ1	購入した製品・サービス	お取引先様より仕入れた食材や備品、各種サービス等	146,484	169,918	213,933 *
カテゴリ2	資本財(設備・建物等の製造・建設に伴う)	店舗建物や調理・空調設備等の取得	5,978	8,200	5,434 ×
カテゴリ3	スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動 (他者から調達している電気等の発電等に必要な燃料の調達に伴う)	外食店舗や食品工場で使用するエネルギーの上流工程 (燃料の採掘や精製等)	3,994	4,179	4,314 ×
カテゴリ4	輸送、配送(上流:原材料・仕入商品に係る製品が 自社に届くまでの物流等)	・お取引先様より仕入れた食材や備品、各種サービス等の輸送・食品工場と外食店舗・宅食営業所間の輸送・宅食弁当のお客様への配達	12,648	13,287	13,318 *
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	外食店舗、食品工場、本社等から出る廃棄物	6,480	6,311	6,023 *
カテゴリ6	従業員の出張	従業員の出張	175	175	158 *
カテゴリ7	従業員の通勤	従業員の通勤	1,298	1,297	1,716 *
カテゴリ12	販売した製品の廃棄(使用者による製品の廃棄時の処理に伴う)	お客様による宅食弁当容器および外食テイクアウト容器の廃棄	1,873	1,776	1,673 ×1
カテゴリ14	フランチャイズ	外食フランチャイズ店舗でのガス、電気の使用	4,860	3,857	5,473 ×1
スコープ3	スコープ1、2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)		183,788	209,000	252,043
スコープ 1、2、	3 合計		212,619	235,419	281,330

●スコープ・カテゴリー別排出割合(2023年度)



●スコープ排出量の経年変化



スコープ算定結果から

2023年度は、新型コロナウイルス感染症による規制もなくなり、影響を受けていた外食事業において業績が大きく改善し、コロナ禍前の2019年度水 準まで回復しています。それに伴い、グループ全体の温室効果ガス排出量は増加しました。中でもスコープ3のカテゴリ1は売上増による仕入れ増の影 響があり、2022年度比126%と大幅な増加となりました。一方、外食事業では食品リサイクル実施店舗が2019年4店舗から40店舗に増加したことで カテゴリ5(事業から出る廃棄物)、宅食事業ではお弁当容器の薄肉化や容器回収率の向上に努め、カテゴリ12(販売した製品の廃棄)において削減で きました。今後、さらに業績が伸びる見込みであることから、サプライチェーンと恊働し、スコープ3のカテゴリ1の抑制を進める必要がある他、スコープ 1、2は、国内外食、宅食、食品工場ともに売上増、稼働率増に伴い増加しているため、省エネルギー機器やLEDの導入を行うなどしてグループ全体で排 出量を抑制する必要があります。

算定結果に基づく算定機関からコメント

算定機関:株式会社ウェイストボックス ※日本で唯一のCDP認定気候変動コンサルティング &SBT 支援パートナー企業

ワタミグループは2019年からスコープ1、2、3算定に取り組み、今年で6年目となります。2023年度は業績がコロナ 禍以前へ回復し、全体の排出量は増加したものの、同程度までは増加していません。その理由は、再エネ導入、外食店 舗での廃棄物削減、宅食弁当容器の軽量化等の取り組みの成果によるものと考えます。

また、ワタミグループの事業では主に食品を扱うため自然への依存度・影響度が高く、今年はTNFDのLEAPアプ ローチに沿った評価を実施し、有機農業による自然へのプラスの影響を特定しています。今後は気候変動との相互関 係も考慮することで更なる環境負荷低減の取り組みに繋がると思います。



株式会社ウェイストボックス 代表取締役 鈴木 修一郎 様

第三者検証の実施

ワタミグループでは、サプライチェーンの上下流 (原料調達から製造、物流、廃棄等)にわたる事業 活動に伴う温室効果ガス排出量について、国際的 なGHG 算定・報告基準「GHGプロトコル」に準 拠し、2018年度から「スコープ1、2、3」の算定を しています。2019年度の実績からは、透明性の高 い情報開示を行うため、「スコープ1、2」について、 ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン (株)による第三者検証を受け、保証書を取得して います。





第三者検証(東御農場)

第三者検証保証書

■ 荷主と運輸事業者の連携による物流脱炭素化プロジェクト(水素を燃料とするトラック輸送)

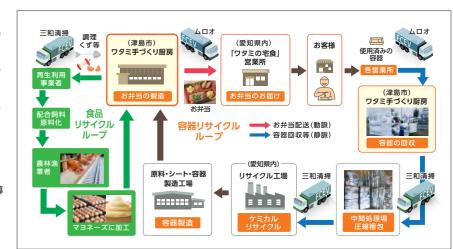
カーボンニュートラルの実現に向け持続可能なま ちづくりの一環であるこの取り組みはスコープ3の カテゴリ4(輸送、配送)の削減に寄与します。

愛知県環境局とワタミ(株)・(株)ムロオ・三和清掃 (株)が取り組む「荷主と運輸事業者の連携による 物流脱炭素化プロジェクト」が、2024年度より水 素を燃料とするトラックを活用した走行実証に向 けて取り組みを開始しました。

【短期 2024年度~】

愛知県内の配送等に小型の水素を燃料とするトラックを導 入することによりサプライチェーン全体の脱炭素化を検討 【長期 2025 年度~】

愛知県外(北陸・関西・静岡等)への配送(幹線輸送)等に 大型の水素を燃料とするトラックの導入を検討



スコープ1、2はワタミグループ(一部子会社を除く)、スコープ3はワタミ単体を対象範囲として算定。今後さらに算定範囲を広げていく。 ●排出原単位には環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース」、IDEAを使用

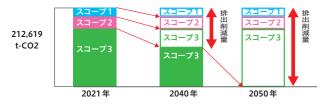
^{※1(}Scope1): 主に外食店舗でのガス使用量増加による※2(Scope 2): 主に外食店舗での電力の使用量の増加による※3(カテゴリ1): 主に仕入量の増加による※4(カテゴリ2): 主に外食店舗での設備投資の減少による※5(カテゴリ3): 主に外食店舗、食品工場等でのガス・電力の使用量の増加による※6(カテゴリ4): 主に仕入量の増加による※7(カテゴリ5): 主に外食店舗による廃棄物減 グス開放員のが扱うによる。※8 (カテゴリ6): 社員の減少による。※9 (カテゴリ7): 注意に対象が通過による。※10 (カテゴリ12): 主に宅食弁当の全宅配エリアでの容器回収リサイクル稼働による回収量増加による。※10 (カテゴリ12): 主に宅食弁当の全宅配エリアでの容器回収リサイクル稼働による回収量増加に伴い、お客様での容器廃棄量の減少による※11 (カテゴリ14): 外食フランチャイズ店舗の稼働時間増加による

34

■ 脱炭素社会へ向けて カーボンニュートラル宣言

2020年10月、日本は2050年までにCO2など温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。ワタ ミグループは、2023年に2050年カーボンニュートラル宣言を表明しました。事業活動の中で排出される温室効果ガスを、サプライチェーンとの協働。 RE100の達成や省エネルギー機器の導入、廃棄物の削減・リサイクル等で削減し、それでも排出される温室効果ガスは有機農業や森林活動を通して創 出されるCO2吸収量をクレジット化しオフセットすることで達成を目指します。

ワタミグループのカーボンニュートラル宣言



- ☑ 施設の設備改善や省エネルギー活動に努め、事業活動におけるCO₂排出を削減します。
- → 事業活動で消費する電力を再エネ電力にします。(2040 年 RE100)
- ▼サプライチェーンにおける CO2 排出量を削減するため、サプライヤー とともに仕入れや輸送に係るCO2排出削減に取り組みます。
- ☑ 廃棄物の削減とともに排出された廃棄物を資源として循環し、利活用します。
- ☆森林再生や有機農業拡大を行い、CO₂ 吸収効果を拡大します。

■ 改正フロン法(フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律)への対応

2015年4月に施行された改正フロン法(フロン類の使用の合理 化及び管理の適正化に関する法律)に基づき、第1種特定製品 の管理者として、簡易点検および定期点検を計画通り実施しま した。2023年度の実漏えい量は184kg、算定漏えい量は 682t-CO2でした。2022年度と比較し、漏えい量は122.9%と 増加しました。冷凍惣菜製造工場の尼崎センターが新設された こと、外食店舗の来店客数増による冷蔵機器の稼働が上がった ことが考えられます。

■漏えい量の推移

(単位t-CO₂)

	R22	R32	R134a	R404A	R407A	R407C	R410A	合計
2020年	_	_	_	337	_	_	47	382
2021年	4	2	14	476	_	_	25	521
2022年	_	_	22	501	_	_	30	555
2023年	1	2	7	656	_	_	15	682

3年連続 外食業界で唯一のAランク認定

エアコンや冷蔵・冷凍庫を冷却するために充填されているフロンは強力な温室効 果ガスであり、CO2の数百~1万倍以上の非常に大きな温室効果があります。そ のため、ワタミでは脱炭素社会に向けて、店舗や営業所等に設置されているフロ

ン類の排出ゼロを目指し、管理を行うと同時に ノンフロン機器への入れ替えを計画的に進め ています。この取り組みが評価され、一般財団 法人日本冷蔵・環境保全機構(略:IRECO)に よるフロン排出抑制法への取り組みをランキ ングする【IRECOフロン格付け】で最高ランク のAランクを3年連続で取得しました。認定対 象1,653社の中で、Aランク認定は76社で、 外食業界では唯一の認定となります。

森林クレジット

結果を経て、販売を行います。

めています。



フロン対策格付表彰式 (右)建設部 圓谷

■ 温室効果ガスのオフセット J-クレジット制度

企業がどんなに温室効果ガスの排出量を抑制したとしても、事業活動 を行うかぎり温室効果ガスの排出はなくなりません。そこで、クレジット を用いてオフセット(埋め合わせ)する方法があります。

|-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネル ギーの利用による CO2 等の排出削減量や、農業や適切な森林管理によ るCO2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

トクレジットの方法論

J-クレジットは排出削減・吸収に資する技術ごとに、適用範囲、排出削減・吸収量の 算定方法およびモニタリング方法があり、方法論として6つに分類されています。

省エネルギー	工業プロセス	廃棄物
再生可能エネルギー	農業	森林

2023年11月に陸前高田市と公益財団法人 Save Earth Foundation

とワタミエナジーが3者で「森林資源の活用に関する連携協定」を締結

しました。「森林経営活動」を陸前高田市が行い、クレジットを創出、ワ

タミエナジーが販売を代行し、クレジット販売を行うプロジェクトを進

現在、クレジット認定に向けた審査を受けており、2024年10月の審査

■ ワタミグループが取り組む 」- クレジット

バイオ炭クレジット

バイオ炭施肥試験(山武農場)

オーガニックタスクフォースでは、有機農業のさらなる価値向上の一環 として方法論の一つである「バイオ炭の農地施用」によるクレジット創 出の検討を進めています。「バイオ炭」とは、「燃焼しない水準に管理さ れた酸素濃度の下、350℃超の温度でバイオマスを加熱して作られる 固形物 | と定義されています。このバイオ炭を農地土壌へ施用すること で、難分解性の炭素を土壌に貯留する活動をクレジット化します。現 在、ワタミファームと連携し、山武農場で施用することで農地や農作物 にどのような影響があるか試験を実施しています。

バイオ炭施肥試験(栽培の様子)

森林クレジットの発行を目指す陸前高田市有林

■ 有機農業の脱炭素効果の「見える化」 有機農業の価値向上に取り組む

農林水産省では「みどりの食料システム戦略」に基づき、持続可能な食料システムを 構築するため、食料システム全体での環境負荷低減の取り組みや国民理解の醸成に 向けて、環境負荷低減の取り組みの「見える化」を推進しています。ワタミグループで は、地域の慣行栽培と比較して有機栽培の温室効果ガス削減効果の「見える化」に取 り組み、対象品目であるかんしょ(さつま芋)、にんじんで最高評価となる三つ星の評 価を取得しました。これは外食業界初のことです。評価のポイントは化学農薬を使用 していないこと、堆肥や緑肥による炭素貯留効果が高く評価されています。これらの 作物はキャンペーンを通して、外食店舗で提供しました。

栽培方法	令和5年度実証の対象品目
露地栽培のみ	コメ、ほうれん草、白ネギ、玉ねぎ、白菜、ばれいしょ、かんしょ、キャベツ、 レタス、大根、にんじん、アスパラガス、リンゴ、日本なし、もも、茶
施設栽培のみ	ミニトマト、イチゴ
両栽培方法ともに対象	トマト、キュウリ、ナス、みかん、ぶどう



温室効果ガス削減「見える化」







■ 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) への取り組み

TCFDとは、Task Force on Climate-related Financial Disclosuresの略で日本では、「気候関連財務情報開示タスクフォース」と呼ばれています。 気候変動が企業に与える影響が大きくなり、これまでの財務情報の開示では、どのような影響を受けるかわかりません。そこで、企業がどのような影響 を想定し、対応をしているのかについて、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標の4項目に対し、リスクと機会の開示を求めています。開示すること で投資家から適切に評価されるメリットもあります。ワタミグループは、2022年度からTCFD提言に基づく開示をしており、気候変動による「リスク」 と「機会」を分析し、持続可能な経営を目指す取り組みを行っています。

脱炭素の情報開示

CDP質問書への回答



CDPとは、Carbon Disclosure Project の略でイギリスで発足した国際NGOで す。気候変動問題に対し、企業や自治体に CO2排出量を開示させるプロジェクトとし

て始まりましたが、現在では気候変動の他、水セキュリティや森林も回 答対象としています。全世界で約23,000社、日本企業では約2,000社 が情報開示に取り組んでいます。

ワタミグループは、2022年に初めて質問書に回答し、日本の外食業界と して初めてBスコアを獲得。2023年も回答し、Bスコアとなりました。 2023年からは気候変動に加え、水セキュリティにも回答しています。

脱炭素経営ランキング GX500 2023



ワタミグループは、日本経済新聞社が脱炭 素に関する取り組みで有力企業500社を ランク付けした「脱炭素経営ランキング GX500 2023」において、外食最高位とな

るBBに格付けされました。スコープ1、2、3においてサプライチェーン からも情報を収集し、スコープ3のカテゴリ1の算定を行っていること や情報の収集が難しいカテゴリ14フランチャイズの算定を行っている ことが評価され、「情報開示」の項目で高い評価を得たほか、2050年 カーボンニュートラル宣言を行ったことで「削減の目標設定」でも評価 いただきました。

サプライチェーンと協働した脱炭素社会への貢献に向けて



取締役 常務執行役ワタミインターナショナル 代表取締役社長 渡邉 将也

業績回復に伴い、温室効果ガスの排出量が増えています。ワタミグループが購入した製品・サービスを示すスコープ3の カテゴリ1は1年前と比べて126%と大きく増加しました。一方で、外食事業の食品リサイクルの取り組み強化や、宅食 事業の容器の薄肉化などにより、カテゴリ5(事業から出る廃棄物)や、カテゴリ12(販売した製品の廃棄)は、1年前に 対して減少する結果となっています。事業拡大と排出抑制の両立を、これからも一丸となって考えていきましょう。

■ 脱炭素社会 今後の取り組み

排出量削減目標の設定 SBT

スコープ 1、2、3 で温室効果ガスのサプライチェーン排出量を把握したのち、具体的な対策の設定として SBT (Science Based Targets) があります。 これは、パリ協定が求める水準と整合した企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のことをいい、温室効果ガスの削減量(1.5度水準)4.2%/年以 上を目安として、申請から5~10年先の目標を設定します。SBTに取り組み、認定を取得することでパリ協定に整合する持続可能な企業として企業 評価の向上、リスク低減、機会獲得につながります。ワタミグループではスコープ 1、2、3 を 2019 年から算定し、温室効果ガスの排出量の把握に行っ てきました。今後、SBT にコミットし、把握した結果から削減目標を立てて、2050 年カーボンニュートラル目標に向けて進めていきます。

農場体験

東御農場にて社員を対象に有機レタ スの収穫体験を実施しました。ワタミ ファームは、農薬や化学肥料を使用し ない有機栽培なので、畑には昆虫やカ エルなどが生息する、豊かな土壌で す。また手間を惜しまず栽培された有 機レタスは、芯のまわりが甘く、栄養 素も豊富です。農場長から栽培方法や こだわりを教えてもらい、それを店舗 でお客様や他の従業員に伝えていき たいといった声があがりました。





長野県の東御農場にてレタス収穫体験が行われました。(左:外食店舗で働く店長と社員 右:本社勤務の社員)

■ 陸前高田わたみ自然学校inオーガニックランド

ワタミでは、環境・社会・経済の調和のとれた、持続可能な未来を創る人づくりを

行っています。世界の人々や、地球上の生きもの、そしてこれから先の未来のこと

も考えて、みんなが幸せに暮らしていける世界にするために、私たち一人ひとり

(Education for Sustainable Development)

持続可能な社会を創る人材を育てるための教育を、ワタミは自然や農業体験を通

じて行っています。未来を生きる子どもたちに「人や自然・生きものを愛し、生命を

持続可能な開発のための

■ ESDとはSDGsを実行する人材育成

ができることを考え、行動するための力を育むESDです。

1999年から、毎年夏休みに小学校 4年生から6年生を対象に「自然学 校」を開催しています。未来を生きる 子どもたちに自然を愛し大切にする 心と、夢を叶える力を育むことを目 的にしています。自然学校の先生は 社内公募で選ばれた社員が務めま

います。

大切にする心」を育んでいます。



す。「命・自然・友達・生活習慣・夢」という5つのテーマに沿って、 子どもたちが自然の中での体験を通して学ぶきっかけを提供して

Voice

居酒屋2部 滝井 昂大郎

上司の強い勧めもあり、ワタミの活動を生で知ること ができる機会だと思い参加しました。陸前高田の大自 然の中で、普段できないキャンプファイヤーやいかだ 作りなどを体験し、日々成長していく子どもたちの姿に 感動しました。親元を離れて自分で何事もやり遂げる 環境で、最初はぎこちなかった子どもたちも1日もすれ ば仲良くなり、協力し合って一つの事をみんなでやり遂 げるといった団結力にパワーをもらいました。夢、仲間 の大切さを改めて知ることができた良い経験でした。



元気いっぱいの子どもたち35名が参加しました。



仲間との絆がより一層強まりました。



地元の七夕祭りに参加し、伝統ある 山車を引かせてもらいました。



17 *********

食糧問題

人口問題

大量生産

大量消費

津波伝承館で東日本大震災津波の 事実と教訓を学びました。



夢作文の発表。ワクワクする夢が たくさんありました。



貧困問題 所得格差

廃棄物の増加

生物多様性の損失

エネルギー問題

収穫体験で採れた野菜は家族に送りました。 野菜嫌いな子も収穫にはとても前向きでした。



報告会では自然学校で学んだことを 家族に伝えました。



1玉がとても大きく中身がしっかり詰まっていました。



こだわりを教わりました。



農場長から有機栽培やレタスの有機栽培ならではのカエルに遭遇

新入社員研修

レタスの収穫は朝5時から始まります

4月の新入社員研修では、社会人としてのビジネス マナー、自社農場のワタミファームなどそれぞれの 現場で研修を行いました。また、環境やSDGsにつ いても講義を受け、ワタミの取り組みを学びました。



新卒10名が新たに仲間に加わりました。

農業・森林活動研修



有機農業にとって大切な土作り。発酵された土が 熱くなり自然の生命力を感じました。



五感で感じながら命のつながりや森の果たす 役割を学びました。



マニュアルを覚えて、声出ししながらロールプレイン



ミールキット製造の学習を行いました。

■ こどもスマイリングプロジェクト

ワタミは、食品ロスのない社会構築を目的とした、一般社団法人 サスティナブルフードチェーン協会の事業の一環で、「未来を生 きる子どもたちが農業体験を通して、生産者が作物を大切に育て 収穫し、それを私たちがいただいている」ことを学ぶ、こどもスマ イリングプロジェクトに参加しました。

有機農場で野菜を収穫し、それを食すことで持続可能な農場を 学び、森の木の枝打ちや間伐体験を通じて生物多様性の大切さ を学ぶ機会として、ワタミは山武農場と日向の森を提供しました。



19名の子どもたちが参加しました。



さつまいもの収穫。一生懸命みんなで



食べ物がどのようにして食卓に届くのかを 学びました。



林業について学んだあとはのこぎりを使って



20mもある大きい木をロープで引っ張り、

従業員の幸せ日本一を目指して



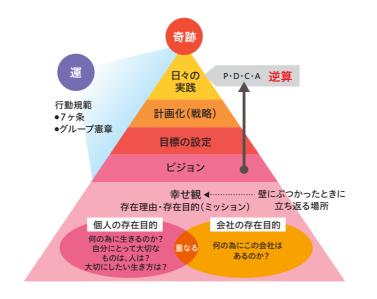
ワタミグループは、理念を共有し、従業員一人ひとりがそれぞれの夢や目標を実現していく組織を目指すことが、会社の成長につながると考えています。また、「ワタミで働いていることに幸せを感じている」という社員の割合(幸せ満足度)95%以上を目指しており、グループ共通で「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになろう」を合言葉に、従業員の幸せ日本一の職場づくりに努めています。

ミッションツリー

ミッションツリーとは、社員一人ひとりの人生と会社をどう重ねていくかという一つの大きなテーマを持った図です。根底にあるのは、個人の存在目的と会社の存在目的です。人間は誰もが自分の生きる目的を持っており、つまり「自分は何のために生きているか」「自分にとって大切なものは何か」、これが個人の存在目的です。これらをもっと大きく会社として形にしたものがミッションであり、会社の存在目的と重ねることで、ミッションを共有してほしいという意味があります。

これを達成するための仕組みがワタミモデルであり、その上で「ワタミモデルを世界中に広げる」という目標に向けて、まずは戦略目標として「2048年1兆円グループ」を掲げ、毎日のPDCAを回そうという、逆算の考え方です。

このミッションツリーの考え方から、新しく「理念集」も作成し、章立ても構成されています。

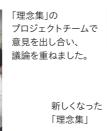


理念集とワタミ夢ストリートの更新

各事業から、日頃より「理念集」を常に意識し、誰よりも活用している社員でプロジェクトを組み、全社員にとって「さらに使いやすく手に取りやすい」理念集が完成しました。社員一人ひとりがワタミの歴史や思いを改めて理解し、自分の言葉で話せるように、理念一覧や事業誕生の背景、最新の会長のメッセージなどを掲載しています。

さらに、本社に来ていただくお客様と、ワタミの理念の接点として開設した「ワタミ夢ストリート」も更新しました。理念の基になった背景を細かく一覧にして展示したり、ワタミモデルの歴史やSDGsコーナーを増設したりと40年分の思いが詰まっています。この「ワタミ夢ストリート」を広げるためアンバサダー制度も導入します。



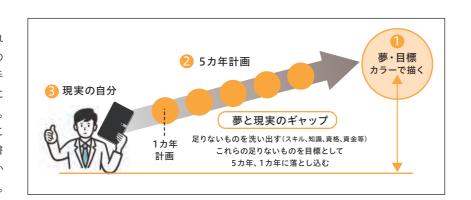




「ワタミ夢ストリート」には、 ワタミモデルの一つひとつの きっかけやエピソードが 年表に展示してあります。

夢手帳

「夢手帳」の考え方(夢や目標をカラーで描き、それらを達成するためにいま何をしなければいけないのかを、年間・月間・週間・日々の行動へと逆算して手帳に落とし込んでいく逆算方式)をもう一度社員に理解し、実践してもらうことに力を入れています。日々の振り返りに活用してもらうために、身近なところである「今日どんな行動を変えるのか」を考え、書くことにこだわって、まずは日記を書き始めることから夢手帳の活用を習慣化してほしいと考えています。



■ 40 周年記念パーティー

2000年東証一部上場の際にも使用した帝国ホテルで、40 周年の記念パーティーを開催しました。40年間の感謝を伝えると共に、「もう一度社員が嬉しくて楽しくて会社を誇りに思って、一体となって次のステージへと向かうそのきっかけを作りたい」という思いから、全社員に加え、100名を超えるご来賓の方々をお招きしました。社員の称賛の場も設け、ワタミモデルをより体現している社員に贈られるワタミ物語賞や、1年間ワタミに多大な貢献をした社員に、創業者より選出される「創業者特別賞」などが贈られました。帝国ホテルという素晴らしいステージで受賞した社員の表情はとても晴れやかでした。



Voice

人材開発本部本部長落石 厚徳

私の所属する人材開発部は、人事企画、総務、労務給与、人材教育など、成果が見えにくい分野を担当しています。しかしながら、そんな部署にも焦点を当て、このような賞賛をいただけることに、心より感謝申し上げます。今年一年は社員の幸福度や満足度を向上させる取り組みに注力してきました。従業員満足度は少しずつですが上昇し、離職率もあと一歩で一桁台に到達するところま

で回復してきました。これは人材開発チームの皆さんが、社員一人ひとりに真摯に向き合ってくれたおかげです。これからも、社員一人ひとりが「この会社で働いていて良かった」と感じ、ワタミで働くことを誇りに思えるよう、全力で取り組んでいきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。



ワタミ物語賞:矢作 梓



勤続20年表彰:諏訪育俊



勤続30年表彰:門司実

■ ワタミモデル体現ツアー

ワタミモデルを日本中に世界中に広めるためには、まずは社員一人ひ とりがワタミモデルを理解し、そして体験し、それらを自分の口で語れ るようにならなければなりません。

ワタミファームの収穫体験やワタミエナジーのにかほツアー、ワタミが支援する3つの公益財団の一つであるSAJのカンボジアツアーなどがコロナ禍を経て本格的に復活しました。ワタミエナジーが運営している秋田県にかほ市にあるワタミの風車「風民(ふーみん)」の稼働から12年目にあたり、現場に足を運んだ社員は、迫力と存在感に圧倒され、「風民」のパワフルさに感動していました。研修会や社内報でしか知ることができなかった現状を体験し、より一層会社の取り組みを理解することができました。

ワタミファーム収穫体験



朝早くのレタス収穫に、営業部社員が参加しました。

SAJ カンボジアツアー



孤児院の子どもたちと一緒に お昼ごはんを食べました。

ワタミエナジーにかほツアー

VOIСӨ ツアー参加者の

ワタミエージェント株式会社 国内人材事業部働き方改革領域 増永 英莉花



これまで実物の風車を見たことが無かったので、勉強も兼ねて参加しました。実際に目にした風車はとても大きく迫力があり、また私が普段過ごしている本社の電気も風民によるものだと思うと感慨深く、自然の力を実感できるいい機会となりました。

夢を語る会

清水副社長が全国の社員約1,000人(店長・所長・主任職以下)を対象に、一人ひとりの社員と向き合いながら日頃の感謝を伝え、全国をまわる「夢を語る会」も2024年で3年目になります。半年に一度開催の全体会議や、課長以上を対象とした幹部理念研修で会長が伝えた話を、何度も繰り返し社員に伝える場としても、夢を語る会は重要な役割を担っています。さらに2024年は、夢実現のために、夢手帳の使い方をもう一度理解してもらうことにも力を注いでいます。



キャリアアップをサポート

新たなキャリアアップ制度を導入

今までのキャリアステップはマネジメントを行うことが前提でしたが、 マネジメントだけではなく専門性の高い業務を遂行することによって キャリアを上げられる専門職コースを構築し、一人ひとりの夢に寄り添 える制度を導入しました。現在は、仕入や商品開発など専門知識の必 要な分野で16名が活躍しています。

スペシャリスト職 エキスパート職 マイスター職 (担当課長) (担当部長) (担当本部長)

社員の健康を守り、向上していくために

健康課題への推進

ワタミではグループ全体で健康推進の取り組みをすることで、従業員一 人ひとりの生産性を高められるよう努めています。

以下は取り組みの内容の一例となります。

- 健康診断100%受診を継続。
- 産業医が判定した健康リスクのある有所見者に対しての保健指導。
- 生活習慣病の発症リスクがある方への特定健康保険指導を実施。
- 私傷病や業務災害により長期休職や入院となった場合に備えて、 休業補償や入院給付を受けられる民間保険に会社が全額負担で 加入。

健康経営優良法人(大規模法人部門)に認定

健康経営優良法人とは、地域の健康課題に 即した取り組みや日本健康会議が進める健 康増進の取り組みをもとに優良な健康経営 を実践している大企業や中小企業等の法人 を顕彰する制度です。ワタミは3年連続で健 康優良法人に認定されました。



■ダイバーシティの推進

異なる経験・技術・属性(ジェンダーや国籍等)を反映した多様な視点 や価値観が存在することが、持続的な成長を確保するうえでの強みに なり、SDGs宣言の実現に資するものと考え、ワタミでは人材の多様性 の確保を推進しています。

出産・育児・介護への支援

従業員が安心して、出産・育児・介護などに携わりながら職場で継続的 に能力が発揮できるよう、出産・育児・介護に関する支援や休職などの 各種制度、時間短縮勤務や深夜就労・残業の制限等を導入しています。 また、改正育児介護休業法に則り、男性の育児休業取得を推進してい ます。出産予定や復職予定の女性従業員のみならず、配偶者が出産予 定の男性従業員に対しても本制度を伝え、産褥期や復職時に夫婦で協 力して育児を行えるよう、会社としてサポートしています。

取り組み	実績(2024年3月末日時点)
育児休業取得率	女性100%/男性23.1%

シニアの活躍

外食、宅食、食品工場などで60歳以上の方々が多数活躍しています。 「高齢者が健康に働ける社会」の実現に向けて、これまでの経験や知識 を活用して、いきいきと働ける環境を提供しています。

適切な労働時間管理と有給休暇の取得

ワタミでは、人事部門にて日々勤務時間数を確認、配信することで、労 働時間が長くなりそうな従業員の上長に対して注意喚起をし、長時間 労働が発生することを未然に防げるように努めています。繁忙期には、 本部の人員も交えて営業態勢を整えるなど、全社一丸となって運営と 時間管理に取り組んでいます。

有給休暇の取得も、年間で必ず5日間以上取得できるよう、人事部門 で管理、発信することで、適切に休暇を取れる環境を整えています。

ハラスメント研修の実施

ハラスメント防止のため、各事業の研修会において、ハラスメント研修 を年2回実施しています。また、パート・アルバイトにも研修内容を動画 で共有し、ハラスメントの知識を習得することにより、社内の啓発を 図っています。また、ワタミでは社外機関とハラスメント救済システム (ヘルプライン)を設置し、救済の場を設けています。

ハラスメント(Harassment)とは

相手の意に反する行為によって不快にさせたり、相手の人間としての尊厳を傷つ けたり、脅したりすること。いわば「いじめ」「嫌がらせ」と同等の意味をもつ行為で す。たとえ、相手を「傷つける」「いじめる」という意図がなくても、相手が不快な感 情を抱けばハラスメントは成立します。

障がい者雇用

障がいの有無を超え、ともに働く仲間として学び合い、ともに成長すること を目標に障がい者の雇用に取り組んでいます。障がい者の方に働く場を提 供するだけでなく、ワタミグループの一員として社会に貢献し、やりがいを もって仕事に取り組める環境づくりが、最も大切だと考えています。現在、 ワタミの外食店舗での清掃や仕込み、宅食営業所での事務補助、「ワタミ 手づくり厨房」での製造・荷受け・事務補助などの仕事に従事しています。

取り組み	実績(2024年5月末日時点)
障がい者雇用率(法定雇用率2.3%)	2.77%

女性活躍推進の取り組み

女性活躍推進への取り組みに関する方針を具体化するため、経営的視 点を伸長させるための教育や、女性がライフイベントを乗り越え働き続 けられる制度の充実などに取り組んでいます。女性が将来にわたり活 躍し続けるためには、結婚や出産などに合わせた人事施策が必要です。 残業時間の削減、有給休暇の取得促進、インターバル制度や短時間勤 務制度の導入などの取り組みを積極的に行い、女性が長く働くことが できる環境を整え離職率の低減を図っていきます。

取り組み	実績(2024年3月末日時点)	
管理職に占める女性労働者の割合	19.1%	



陸前高田 Watami オーガニックランド

陸前高田ワタミオーガニックランド

2011年に起きた東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市。震災から10年目の節目に 奇跡の一本松を望む今泉地区に、ワタミの思いを伝える「陸前高田ワタミオーガニックランド」が開業 しました。ワタミモデルを具現化し、農業や環境、エネルギーを通じた「循環型農業テーマパーク」であ ると同時に地方創生にも貢献することが目的です。

陸前高田市とワタミのつながり

2011年3月11日東日本大震災発生直後から、ワタミは岩手県陸前高田市への災害支援を開始しました。 そして戸羽市長(当時)から会長の渡邉へ「陸前高田市参与(震災復興支援)」の要請があり、就任しました。

2011年6日

会長の渡邉が陸前高田市参与(震災復興支援)に就任 2011年6月~11月

ボランティアツアー(がれき撤去・農地の除草など) に延べ2,531名参加

2012年3月

ワタミの宅食総合受付センター(コールセンター) 竹駒地区にオープン

東日本大震災発生以降、同市への本格的な 企業立地は初めて

2013年3月 ボランティアツアー(農作業支援)

2018年3月 陸前高田市で「みんなの夢 AWARD I 開催

2019年8月 陸前高田ワタミオーガニックランド建設発表

陸前高田ワタミオーガニックランド オープン

2022年2月 ワタミオーガニックランドにソーラーシェアリング設置

2022年12月

ワタミオーガニックランドのソーラーシェアリングが発電を開始

2023年5月 会長の渡邉が新市長の佐々木氏を表敬訪問

2023年8月

陸前高田ワタミオーガニックランドに「HIROTAKE PARK」 と野外音楽堂「D Stage」が完成

陸前高田市と「森林資源の活用に関する連携協定」を締結 広田湾漁業協同組合と「水産資源の有効活用に関する包括連携

陸前高田市×ワタミオーガニックランド

SDGs 未来都市を体験できる新ツアー 「体験型 SDG s ツアー」を創設

2024年3月より、ワタミオーガニックランドでは、SDGs未来都市に選定 非日常体験を通して、自然と生命の繋がりや自然の恵みと脅威を学ぶこ されている陸前高田市とともに、6つの視点から SDGs 未来都市戦略を 体験的に学べる「体験型 SDGs ツアー」を創設しました。本ツアーは、中 高生の教育旅行やSDGs推進を目的とした企業研修などでの利用を想 定しており、陸前高田市全体を教育リソースと捉え、ここでしかできない

とで、"命の循環"や"命の尊さ"、"自然共生社会"の必要性を感じていた だく機会を提供することを目的としています。ひとりでも多くの方に現代 社会が抱える課題点と未来への課題解決を考えるきっかけを提供しなが ら、陸前高田市の活性化にも貢献していきます。



ワタミオーガニックランド内で、収穫体験や、 BBQ などを通して、持続可能な農業(有機農 業)の取り組みを学ぶことにより、現代社会の 課題と解決策を考えるきっかけに



林業の現場体験や森林クレジット制度に関し て学び、カーボンニュートラル社会の実現に 向けた課題解決を考えるきっかけに



養殖事業の取り組みや、ブルーカーボンによ る藻の再生を学び、海洋資源保全と森の関係 性を知ることで、現状の課題を考えるきっか



エネルギー

オーガーックランド内での 白然エネルギーを ■ 活用した RE100 の取り組みやグリーンス ローモビリティを学び、持続可能な社会の実 現への課題を知るきっかけに



😇 🍱 自然の恵み

陸前高田市の山・川・海・里を体感し、自然サ イクルが生み出す豊かな恵みを知り、自然共 生社会の実現に向けた課題を知るきっかけに





津波伝承館での解説や防災キャンプ体験など を通じて、多様化する災害に備え、災害に強い まちづくりや環境問題と自然災害の関係性を 知るきっかけに

ワタミオーガニックランドのソーラーシェアリング事業 2023年度「ソーラーウィーク大賞」で特別賞を受賞

ワタミオーガニックランドは、2022年より実施した農地の上部空間を活用 した太陽光発電と農地を共有する「ソーラーシェアリング事業」において、 一般社団法人太陽光発電協会(JPEA)が主催する「ソーラーウィーク大賞」 で特別賞を受賞しました。この賞は、「地域に貢献し、地域から望まれ、他の 模範ともなる太陽光発電の普及拡大に資する取り組み・事業とそれを支え ている方々」を表彰するのものです。

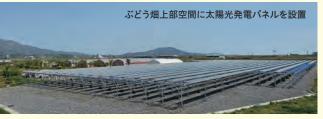
ワタミオーガニックランドでは、ソーラーシェアリングにより発電された再 生可能エネルギーを園内の自家消費だけでなく、地域電力会社を通し、市 内の公共施設等に供給しています。今後も、陸前高田市を始め、すべてのス テークホルダーと協力しながら被災地復興、地方創生に貢献していきます。





2024年10月ぶどう収穫後、





地域の子どもたちとの取り組み















1995年から本格的に始まった社会貢献活動。各事業拠点が所在する地域との関わりを深めるために、地域イベントにも参 加しています。ワタミグループのスローガンである「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになろう」を具現化 していくために、地域や社会の発展に貢献する活動を推進しています。

能登半島震災復興支援

福祉避難所へ冷凍惣菜提供

「ワタミの宅食ダイレクト」では2024年2月より、現地で支援活動を行 う3団体を通じて、令和6年能登半島地震で甚大な被害を受けた輪島 市の方々の二次避難所がある福井県勝山市の福祉避難所へ冷凍惣菜 を提供をしました。







現地で支援活動を行う3団体「NPO法人ぐりんとびー」「医療法人社団オレンジ」 「全国訪問ボランティアナースの会キャンナス災害支援チーム」

老舗旅館「加賀屋」様お土産品販売で応援

2005年より「わたみのおせち」を監 修していただいている能登半島の 名旅館「加賀屋」ですが、震災によ り休業が続く状況にありました。そ こで、「加賀屋」のお土産を仕入れ て「ワタミの宅食」のお客様に、応援 販売を行いました。



まちづくり

4年ぶりにお食事会を開催

2024年2月15日「ミライザカ 渋谷道玄坂店」、20日「ミライザカ 梅田 茶屋町店」で近隣の施設の方をお招きし、お食事会が行われました。お 食事会は障がいの有無に関わらず外食を楽しんでいただきたいという 思いから、20年以上続けている取り組みです。新型コロナウイルスの影 響により開催できていませんでしたが、4年ぶりの開催では約40名の 社員がボランティアとして参加し、お食事会を盛り上げました。社員に とってはサービスの原点であるホスピタリティについて学ぶ大切な機 会になっています。







「水産資源の有効活用に関する包括連携協定」を締結

2023年11月30日に広田湾漁業協 同組合と「水産資源の有効活用に関 する包括連携協定」を締結しました。 居酒屋業態「和民のこだわりのれん 街」「炭旬本店」「すしの和」、陸前高 田ワタミオーガニックランドにて、広



田湾産の牡蠣やわかめを使用したメニューを提供することにより広田湾 の認知度向上につながる取り組みを行い地域活性化に寄与しています。

「森林資源の活用に関する連携協定」を締結

2023年11月30日にワタミエナ ジーと陸前高田市、および公益財 団法人Save Earth Foundation は「森林資源の活用に関する連携 協定」を締結しました。相互の連携 を強化し、森林クレジットの創出と



活用並びに多様な主体が参加する森林活動を通して、陸前高田市にお ける安定した森林経営基盤を確保し、計画的に実施される森林整備に よってもたらされる森林の多面的機能を将来世代に継承していきます。

| 宅食の取り組み

冷凍惣菜寄附で子育て支援

2024年2月より「ワタミの宅食ダ イレクト」は、埼玉県庁を通じて、ひ とり親家庭などで子育て中で食品 支援が必要なご家庭を対象に食品 を無料で配布するNPO法人埼玉 フードパントリーネットワークへ商



品を寄附しています。「ワタミの宅食ダイレクト」では事業を行う上で、 余剰在庫やお届け不可の持ち戻り品など、どうしても廃棄しなければ ならない商品が発生するため、寄附をすることで子育て支援および食 品口ス削減の両軸からSDGsの活動を推進していきます。

ローソンと協業し物流シェアリング

2024年4月から株式会社ローソン と商品配送トラックの「物流シェア リング」を開始しました。配送網の 効率化とCO2排出量削減やコスト 抑制を図り、ローソン店舗への商品 配送を行っているトラックの非稼働 時間を活用して「ワタミの宅食」の



商品を食品工場から営業所へ配送します。物流2024年問題に対して、 業界の垣根を超えた連携をすることで持続可能な店舗網の構築を目指 していきます。

山武農場で野菜収穫&日向の森で間伐体験

「こどもスマイリングプロジェクト」 が主催するイベントにて、東京都大 田区の子どもたち19名を対象に、 「有機農場で野菜収穫体験&間伐 体験」を実施しました。子どもたち は持続可能な農業、林業、食の大切 さを学びました。





TGIフライデーズ KIDS CAMP

2023年8月25日1日限定体験型イ ベント「TGI FRIDAYS KIDS CAMP 『High Five 2023』」を舞浜イクスピ アリ内にあるセレブレーション・プラ ザにて開催しました。紙芝居を使って 子どもたちに食べ物を残さないこと や、命をいただいていることを伝えま した。タコス作りやバーテンダーによ るフレアーショーパフォーマンスな ど、楽しみながら子どもたちに食育を 行いました。





外食の取り組み

漁業応援キャンペーン

福島第一原発の処理水の海洋放出が始まってから中国政府が日本産 の水産物を全面禁輸、香港政府においても10都県を原産地とする水 産物の輸入禁止を政府が発表したことを受け、風評被害の影響が長期 化することが懸念されているため、ワタミは水産物の中でも特に影響を 受けている国産のホタテを使用したキャンペーンを2024年9月に開 催しました。「ミライザカ」では「ホタテのガーリックステーキ」、「三代目 鳥メロ」では「帆立メロ寿司2種(刺身&炙り)」などのメニューを提供 しました。





EARTH HOUR 2024

2024年3月23日、ワタミは外食チェーン・ホテル12社と環境啓発に 取り組むアライアンス「Food with Sustainability」を設立し、WFF (環境保全団体)の活動「EARTH HOUR 2024」に参加しました。 ワタミは全15業態が参加し、ポスター掲示による啓発や、当日に20時 半~21時半の1時間、店舗の看板やエアコンをオフにするなどの取り 組みが行われました。



食べ残しゼロでお菓子つかみ取り

幸せの焼肉食べ放題「かみむら牧場」では2023年10月16日~10月 31日までの間、小学生以下のお子さまを対象に、食べ残しゼロで「お 菓子つかみ取りチャレンジ」ができるハロウィーンキャンペーンを実施 しました。また期間中はすべての食べ放題コースを通常よりも20分延 長し、ご家族でゆっくりと心ゆくまで焼肉食べ放題を楽しみながら、 「食べ残しゼロ」という食育の機会を提供しました。





「和民のこだわりのれん街」では自社の 有機農場で採れた新鮮な有機人参と有 機ベビーリーフを数量限定で提供しま した。







ワタミグループが支援する社会貢献団体

公益財団法人 Save Earth Foundation (SEF) 公益財団法人 School Aid Japan (SAJ) 公益財団法人 みんなの夢をかなえる会

ワタミグループは、「環境とともに・社会とともに・人とともに」をブランドテーマに掲げ、事業活動を超えた領域でもたくさんの"ありがとう"を集めるべ く、社会貢献団体への支援を積極的に行っています。3つの社会貢献団体へは設立当初より、外食店舗や宅食営業所に募金箱を設置、イベントや森林 保全活動に社員がボランティアとして参加するなど、様々な形で継続的に関わっています。

公益財団法人 Save Earth Foundation (SEF)

2015年に設立。「美しい地球を子どもたち残すため、限りある自然資源を有効利用し、持続 可能な循環型社会づくりに貢献すること」を目的に掲げ、活動しています。事業内容は食品リ サイクルループと廃棄物の適正処理を推進する「資源循環事業」と森林の再生保全、生物多 様性の保全、環境教育を推進する「森林再生事業」に取り組んでいます。



資源循環事業 ゼロエミッション研究会

資源循環事業では、持続可能な循環型社会を目指しゼロエミッション 研究会を通して、食品の製造から流通・外食・小売にいたる過程で発生 する食品廃棄物を、SEFが会員企業である食品関連事業者(メー カー、卸売業、外食業界、小売業、リサイクラー、農業生産者など)と協 働し、飼料や肥料などに再資源化して食品生産に活用する「食品リサイ クルループ」の構築に取り組んでいます。

勉強会	開催日	内容	参加者
第1回	5/23	食品リサイクル法について	83名
第2回	7/20	消費者が取り組む食品ロス削減 LFCコンポスト 講師:ローカルフードサイクリング(株)たいら由以子氏	72名
第3回	9/21	見学会:アルフォ(株)第2飼料化センター 計量器実演:(株)寺岡精工	27名
第4回	11/17	食品リサイクルループの社内での推進 講師: ワタミ(株) 柳原拓海氏	
第5回	1/26	廃棄物関連法令を学ぶ 講師: 佐藤泉法律事務所 佐藤泉弁護士	85名
第6回	3/28	農林水産省、環境省から情報共有 講師: 農林水産省大嶋氏、環境省金井室長代理	71名





2024年度取り組み

新規地域での食品リサイクルループ構築【福岡·山口】

2024年度、新規地域として福岡市、宇部市・山口市での食品リサイクル ループ構築を目指しています。福岡市では、市内のリサイクラー、福岡市 と打ち合わせを行い、福岡市の食品ロス削減の取り組みを実施するこ 連携した食品リサイクルループ構築の取り組みを行います。



43



2023年度成果

京都市再生利用事業計画の認定取得

2022年、環境省の令和4年度食品廃棄 ゼロエリア創出モデル事業に採択され、 京都市を舞台に外食業界、食品小売業、 宿泊業の多様な事業者が協働して構築し た再生利用事業計画(食品リサイクルルー プ)が2024年3月に大臣認定を取得しま



大田区での食品リサイクルループ構築

2023年度大田区と連携し、食品ロスの削減に取り組むとともに多業種 での食品リサイクルループ構築を図り、外食業界、食品小売業、宿泊業 から排出する食品残さを資源として循環させることでサーキュラーエコ ノミーの実現を目指しました。



TODICS 廃棄物勉強会 6/28 参加者24名

2023年度、志岐理事を講師と したゼロエミッション研究会の 分科会となる「廃棄物勉強会」 を開催しました。廃棄物処理法 の歴史、マニフェスト、廃棄物委 託契約などの法令順守や廃棄 物の適正処理と適正料金につ いて実践的に学びました。



森林再生事業

自然の恵み豊かな社会を未来の子どもたちに引き継ぐため、全国の森で再生保全や森の資源を活用する活動、森の機能や持続可能な社会について考える 環境教育を行っています。2024年度は森林アカデミーを開催し、森林を通したネイチャーボジティブや脱炭素による企業価値の向上の啓発を行います。

森林アカデミー開設

2024年度から新規取り組みとして「森林アカデミー」を開催します。 ネイチャーポジティブが世界的な目標となり、企業は地球環境や生物 多様性を保全し、経済と環境を両立する持続可能な経営を目指すこと が求められる他、TNFD等企業の情報開示を通して森林の重要性が増 しています。そこで森林アカデミーでは、「なぜ今、企業が森に関わるの か」をテーマに森林保全活動の具体的な事例紹介や、生物多様性の取 り組み、森林クレジットによる脱炭素社会への貢献の取り組みについ て勉強会を開催します。参加した企業が勉強会で得た知識や体験を生 かし、各社での「企業の森」活動を実践できることを目的としています。 2023年11月と2024年2月に森林アカデミープレ開催を実施しまし た。企業が取り組む森林保全と木材利活用や脱炭素・生物多様性の関 わりについて学び、日向の森で森林活動を体験しました。

講師:SEF顧問 長野麻子氏(株式会社モリアゲ)





森林アカデミー森林研修

2023年度成果

陸前高田市×ワタミエナジー(株)×SEFによる 3者協定締結

2023年11月30日「森林資源の活用に関する連携協定」を締結しまし た。今後は、会員企業の企業の森の活動の場、創出した森林クレジット の活用を行う場として取り組みを実施します。

市島南自治会×石光商事(株)×SEFによる 3者協定締結

2024年3月、市島南自治会とSEFが協定を締結している兵庫県丹波 市のウッディミナミの森で会員企業の石光商事(株)と新たに3者協定 を締結しました。今後、「企業の森」のモデルとして森林再生・生物多様 性保全活動を行います。

2024年度計画 自然共生サイト(OECM)への申請

日向の森では、2016年から継続して生物調査を実施しており、希少種 のモニタリングと保全を行っています。2024年度、環境省の自然共生 サイトへ申請し、認定を目指します。

また、海上の森では、愛知県の自然共生サイトに申請予定です。

SEFの活動拠点

🔷 資源循環事業のリサイクルループ拠点

森林再生事業の拠点







日向の森:生態系調査と保全活動

各地での森林再生事業



陸前高田の森:企業の森候補地を視察



車御の森: 森林休齢学習



日向の森:第7回植樹会

ワタミグループが支援する社会貢献団体

公益財団法人 School Aid Japan (SAJ)



School Aid Japan ®

2001年NPO法人として設立。「一人でも多くの子どもたちに、人間性の向上のための教育機会 と教育環境を提供する」という活動方針のもと、カンボジア、バングラデシュなど開発途上国の子 どもたちへの支援を行っています。寄附金・会費は「全額、現地の支援費に使う」ことを原則とし、 その使途を明確にしており、「現地の変化を実感できる支援」を行っています。







主な事業活動紹介

カンボジア

●学校建設事業 ●就学支援事業 ●孤児院運営事業 ●食の支援事業(朝給食支援・お米支援)

バングラデシュ ●学校運営事業●学校建設事業

学校建設の実績

370核 ※2024年4月現在

カンボジア339校 バングラデシュ 23校 ネパール8校



「学校建設事業 INo.260 セイライ・モンコール幼稚園







「食の支援事業」毎月10kgのお米を提供

Topics

孤児院「夢追う子どもたちの家 | 開園 15 周年!

カンボジアにて SAJ が運営する孤児院「夢を追う子どもたちの 家」が開園15周年を迎えました。

両親を亡くしゴミ山で働いていた子や、両親をHIVで亡くした 子、育児放棄されていた子など、過酷な状況の子どもたちが夢 を持ち、夢を追い、夢を叶えることができるようにという思いか ら、2008年に孤児院を開園しました。

開園当初は30名ほどの子どもしかいませんでしたが、現在は 100名の子どもたちが元気に過ごしており、孤児院の名前のと

おり夢と笑顔であふ れる場所となってい

100名以上の卒園 生も立派に社会で活 躍しています。子ども たちの未来のために これからも活動を続 けていきます。



「孤児院運営事業」夢追う子どもたちの家15周年式典

みんなの 曲

"夢"とは、その人が生まれてきたからこそ起きる「素敵な奇跡」です。一人でも多くの人に、 夢を持ち、夢を追い、夢をかなえる為のきっかけを提供することで、様々な社会課題が解決 され、たくさんの"ありがとう"が飛び交う社会を実現するために、「みんなの夢 AWARD」 「高校生みんなの夢 AWARD」「渡美塾(渡邉美樹実践経営塾)」を開催しています。













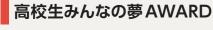
社会起業家の発掘・育成・支援を目的と したビジネスプランコンテスト。

みんなの夢 AWARD

全国から応募のあった社会課題を解決 するビジネスプランの中から、厳しい審

査を通過したファイナリストが自らの"夢"を発表します。 (累計エントリー数 4,836人・累計オーディエンス数 39,000人)

公益財団法人 みんなの夢をかなえる会



高校生を対象としたビジネスアイデアコ ンテスト。事前オンライン学習コンテンツ 「ソーシャルビジネス学習プログラム」を 通じ、高校生が自ら解決したい社会課題 を特定し、それを解決するビジネスアイデ アを発表します。(累計エントリー数479 校 • 2,680 人)



■渡美塾(渡邉美樹実践経営塾)

ワタミの会長兼社長CEOである渡邉が、経営者や起業家に対して経営 の要諦を伝授し、社会課題を解決しながら雇用と納税を生み出すCSV 経営者を育成します。(塾生延べ977人・個別経営指導数人数260人)

lopics

「みんなの夢AWARD14」グランプリを戸松 裕登さんが受賞!

愛知県に拠点を置く創業70年の町工 場、株式会社丸菱製作所の3代目。「工場 の困ったイマを解決する!]をテーマに、 受注の波に経営が安定しない町工場を 支援する、製造業のフリマサイトビジネ ス「ASNARO(アスナロ)」を立ち上げ た。日本の代表的な産業であるモノづく り業界を次の世代へ引き継ぐ夢を発表し 見事グランプリを受賞。(2024年3月12 日LINE CUBE SHIBUYAにて開催)



グランプリを受賞した

「渡美塾オンライン」が開設!

塾長である渡邉の「経営者」としての側面と「教育者」としての 側面の両面から学べる「渡美塾オンライン」を起ち上げまし た。40年の経営者人生で学んだ経営の要諦を、失敗事例も含 めて学べるサイトです。円安・インフレ・財政破綻・・・激動の時 代を勝ち抜くヒントが満載。部下の育成はもちろん、子育ての ヒントも豊富で、経営者や起業家はもちろん全ての社会人、そ して子どもを持つ親、学生などどなたでも学べるオンラインサ ロンです。

ワタミサスティナブルレポート 2024 第三者意見

従来サスティナブルというと、脱炭素社会構築に重きを置かれ ていたが、2023年に公開されたTNFD(自然関連財務情報開 示タスクフォース) の枠組を活用した情報開示が本格化し、 2024年は、生物多様性や自然資本の情報開示を巡って大きな 動きのある年となった。2022年の生物多様性条約の「昆明・モ ントリオール生物多様性枠組み」(GBF)では、生物多様性に対 するリスク、依存、影響を定期的に監視、評価し、透明性をもって 開示することを求めている。今年はコロンビアでCOP16の開 催が予定され、「ネイチャーポジティブ元年」ともいえそうな様 相である。

こうした背景の中で40周年を迎えたワタミのサスティナブルレ ポートにおいては、直近の動きと合わせて、その環境・社会貢 献についての軌跡を持続可能性の観点から追いかけることが できる。創立直後のボランティア活動やリサイクルの取り組みか ら2010年には外食産業として唯一のエコ・ファースト企業に 環境省から認定を受け、更に持続可能性においてSDGsを本業 に取り入れている等、意義と覚悟も年表や代表対談から読みと れる。また重要課題を設定し組織横断体制のタスクフォースで 取り組んでいることが、各タスクフォースで詳述している頁で掘 り下げられるよう工夫されている。特に有機農業の活動でもタ スクフォースを設置し、活動と成果を報告している点は、国のみ どりの食料システム戦略の方向性と合致し、評価できよう。今後 の更なる有機栽培面積の拡大と、消費者の理解を深めていただ

さて、ネイチャーポジティブという概念には、サーキュラーエコ ノミーを通じた資源への開発圧力の緩和やプラスチックによる 汚染の回避も含まれ、ワタミは食品リサイクル・容器包装リサイ クルにも取り組んでいる。新型コロナウィルスの影響もあるので トレンドの特定は難しいが、廃棄物コストの比率の減少、改善傾 向にある外食店舗での食品リサイクル率の傾向を継続する努力 を期待したい。また、森林再生事業も行い、東日本大震災被災 地である陸前高田市における森林にも寄与し、カーボンのクレ ジット化、生態系への配慮など、多方面での取組の議論にも関 連する財団(SEF)において私自身も議論に参画をしてきた。 自然資本への影響と合わせて、人的資本の配慮として、人権方

針・従業員福利が記載され、サプライチェーン全体での目配り が欠かせない。また、レポート全体を通して各専門家や従業員の コメントが充実しており、社内の息遣いを伝えようとするポイン トとなっている。部門、セクター、事業者間の垣根を越えて対話を していこうとする姿勢が伺える。例えば、本会の報告書では、自社 の取り組みだけではなく、サントリーホールディングス株式会社 とのネイチャーポジティブについての対話も報告されている。社 内外の連携により、人的資本の拡充が行われ、実際の対話と合 わせて、サプライチェーンや緑地・森林保全を通じた連携によっ て、GBFの達成に向けて貢献してもらうことを期待したい。

第三者意見

本年は私自身、研究者として生物多様性及び生態系サービスに 関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)の生物多様性 及び自然の寄与に係るビジネスの影響と依存度に関する方法論 的評価(いわゆる「ビジネスと生物多様性アセスメント」)の総括 執筆責任者として参画している。現在存在するなかで、方法論の なかで、どのように現時点での最善の推定ができるのかというこ とがポイントとなっている。同時に、どのような場面、場所で影響 や依存が発生しているのか、という点を掘り下げていくことは難 しい。サプライチェーン、生態系のレジリエンス、水などを通じ、 気候変動と生物多様性の相互の影響が大きく注目されつつある なかで、本報告書に萌芽がみられるように、気候変動、サーキュ ラーエコノミー、生物多様性を一体的に報告し、検証しようとす る機運を醸成していく必要があろう。特にネイチャーポジティブ を、どのように見える化し、検証していくのか、という点について 将来的に事業者、行政、研究者が対話を深めていくことが重要と



東京大学 農学生命科学研究科 森林科学専攻教授

香坂 玲氏

ワタミふれあいカード

1996年度より、「未来の子どもたちのために」をテーマに「ワタミふれあいカード(クレジットカード)」を発行して おり、ワタミグループ国内外食店舗、「ワタミの宅食ダイレクト」での利用総額の1%相当を、社会貢献活動を行う 団体に寄附しています。2023年度は、カードご利用総額53,623,384円1%相当となる536,235円を3つの公益 財団法人「School Aid Japan」、「Save Earth Foundation」、「みんなの夢をかなえる会」に寄附いたしました。

ご意見・ご感想をお聞かせください。

「ワタミサスティナブルレポート2024」をご覧いただき、誠にありがとうございました。 より良いレポートを制作していくために、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。





46

※人数は2024年4月現在